

# もくじ

もくじ .....	1
はじめに .....	5
DynaBook でやりたいことを探そう！ .....	8

## 1章 本体の機能

13

1 各部の名前 .....	14
① 前面図 .....	14
② 背面図 .....	16
③ 裏面図 .....	17
2 システムインジケータ .....	19
3 キーボード .....	20
① キーボード図 .....	20
② キーシフトインジケータの切り替え .....	22
③ キーを使った便利な機能 .....	23
4 タッチパッド .....	26
① タッチパッドを使いややすくする .....	26
② タッピング機能 .....	26
③ その他の設定 .....	29
5 ディスプレイ .....	31
① ディスプレイの設定 .....	31
6 ハードディスクドライブ .....	37
① ハードディスクドライブに関する表示 .....	37
7 サウンド機能 .....	38
① スピーカーの音量を調整する .....	38
② 音楽／音声の録音レベルを調整する .....	39
③ システムスピーカについて .....	40
8 フロッピーディスクドライブ .....	41
① フロッピーディスク .....	41
② フロッピーディスクのセットと取り出し .....	41
③ フロッピーディスクを使う前に .....	43
9 マルチドライブ .....	47
① CD／DVDについて .....	47
10 ワンタッチボタン .....	50

11 新着メールをランプで確認する .....	52
① 新着メールチェックの設定をする .....	52
② 新着メールを確認する .....	57
③ 新着メールチェックを停止する .....	57
12 内蔵モデムについて .....	59
① 海外でインターネットに接続する .....	59
13 セキュリティロック .....	62

## 2章 バッテリ駆動

63

1 バッテリについて .....	64
① バッテリ充電量を確認する .....	65
② バッテリを充電する .....	67
③ バッテリパックを交換する .....	69
2 省電力の設定をする .....	71
① 省電力ユーティリティ .....	71
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る .....	76
① スタンバイ .....	76
② 休止状態 .....	77
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する .....	78

## 3章 音楽と映像

81

1 音楽 CD を聴く .....	82
① Windows を起動して音楽 CD を聴く .....	82
② Windows を起動しないで音楽 CD を聴く .....	84
2 音楽ファイルを聴く .....	85
① Windows Media Player を起動する .....	85
② Windows Media Player でファイルを再生する .....	85
3 オリジナル音楽 CD を作る .....	89
① Drag'n Drop CD を使うために .....	89
② Drag'n Drop CD を使う .....	91
4 DVD-Video を観る .....	92
① InterVideo WinDVD を起動する .....	92
② InterVideo WinDVD を使う .....	93

5	デジタルカメラの写真を編集／整理する .....	98
①	デジカメ Walker を使う .....	98
6	動画を編集する .....	101
①	MotionDV STUDIO を使う .....	101
②	デジタルビデオカメラを接続する .....	102

## 4章 周辺機器の接続

103

1	周辺機器について .....	104
①	周辺機器を使う前に .....	105
2	PC カードを接続する .....	106
①	PC カードを使う前に .....	106
②	PC カードを使う .....	107
3	USB 対応機器を接続する .....	109
4	プリンタを接続する .....	110
①	プリンタの接続と設定 .....	110
5	テレビを接続する .....	112
①	テレビの接続と設定 .....	112
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する .....	114
①	i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続 .....	115
7	CRT ディスプレイを接続する .....	116
①	CRT ディスプレイの接続と表示 .....	116
8	その他の機器を接続する .....	118
①	RS-232C 対応機器 .....	118
②	PS/2 対応機器 .....	118
③	マイクロホン .....	119
④	ヘッドホン .....	120
⑤	オーディオ機器 .....	121
9	LAN へ接続する .....	122
10	メモリを増設する .....	125

## 5章 アプリケーションを追加する／削除する

129

1	アプリケーションを追加（インストール）する .....	130
①	インストールする .....	130

2 アプリケーションを削除（アンインストール）する .....	131
① アンインストールする .....	131

## 6章 システム環境の変更 133

1 システム環境の変更とは .....	134
2 東芝HWセットアップを使う .....	135
① 東芝HWセットアップの起動と使用 .....	135
3 セットアッププログラムを使う .....	143
① セットアッププログラムの操作 .....	143
② セットアッププログラムの画面 .....	145
③ 設定項目 .....	146

## 付録 161

1 アプリケーション一覧 .....	162
2 本製品の仕様 .....	164
3 各インターフェースの仕様 .....	169
4 技術基準適合について .....	176
さくいん .....	190

# はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

## 記号の意味

<b>⚠ 警告</b>	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。 <small>じゅうしょう</small>
<b>⚠ 注意</b>	誤った取り扱いをすると、人が傷害 <sup>*1</sup> を負ったり、物的損害 <sup>*2</sup> の発生が想定される内容を示します。 <small>じょうがい</small>
<b>お願い</b>	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
<b>メモ</b>	知つておくと便利な内容を示します。
<b>参照</b> ➔	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「」 他のマニュアルへの参照の場合 …「」 サイバーサポートへの参照の場合 …《》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

\* 1 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

\* 2 物的損害とは、家屋・家財にかかる拡大損害を示します。

## 用語について

本書では、次のように定義します。

**システム** 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

**アプリケーションまたはアプリケーションソフト**

アプリケーションソフトウェアを示します。

**Windows XP**

Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

**MS-IME** Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

**サイバーサポート**

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

## 記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

## Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。  
Bookshelf Basicは、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第6版 (c) 研究社 1967,1994,1998、『新和英中辞典』 第4版 (c) 研究社 1993, 1995,1998、『新明解国語辞典』 第5版 (c) 三省堂 1972,1974,1981,1989,1997
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネットは（株）東芝の商標または登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag' n Drop CD はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの商標です。
- ・ Easy Systems はイージーシステムズジャパン株式会社の登録商標です。
- ・ DigiOn は株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ VERITAS は米国 VERITAS 社の登録商標です。
- ・ 駅すばあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Live Update は Symantec Corporation の登録商標です。  
(c) 2001 Symantec Corporation. All Rights Reserved.
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。

- ・東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。
- ・ぷららは株式会社ぷららネットワークスの登録商標です。
- ・InfoSphereはNTTPCコミュニケーションズの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

## 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

## リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。

本製品の電源を入れた状態で、次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [リリース情報] をクリックする
- ③ 左画面の [リリース情報] をクリックする

## お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

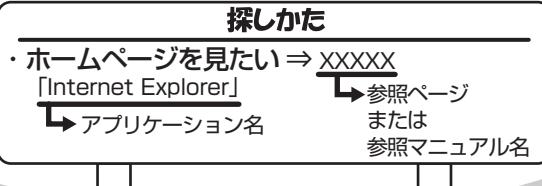
使用する前に本体同梱の「お客様登録カード」に必要事項を記入のうえ、返送してください。

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

# DynaBookでやいたいことを探そう！



Welcome!



## インターネットを楽しむ

- ・プロバイダと契約したい ⇒ 『まずはこれから』  
「簡単インターネット」
- ・ホームページを見たい ⇒ 『基本をマスター 2章 インターネットを楽しもう』  
「Internet Explorer」
- ・英語のホームページを日本語に翻訳したい ⇒ 《サイバーサポート》  
「インターネット翻訳 英日」
- ・日本語のホームページを英語に翻訳したい ⇒ 《サイバーサポート》  
「インターネット翻訳 日英」
- ・海外でインターネットに接続したい ⇒ P.59  
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」



## メールを使う

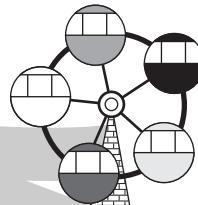


- ・メールとスケジュールをまとめて管理したい ⇒ 《サイバーサポート》  
「Microsoft Outlook」
- ・メールをしたい ⇒ 『基本をマスター 3章 電子メールを楽しもう』  
「Microsoft Outlook」
- ・自動メールチェックしたい ⇒ P.52  
「新着メールチェックのスケジュール設定」



## 音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい ⇒ P.82  
「Windows Media Player」
- ・オリジナル音楽CDをつくりたい ⇒ P.89  
「Drag'n Drop CD」



## 音声



- ・パソコンを音声で操作したい  
パソコンに文章を読み上げさせたい  
「LaLaVoice」 ⇒ 《サイバーサポート》



## 画像 / 映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい ⇒ P.98  
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」
- ・デジタルビデオカメラの映像を取り込んで編集したい ⇒ P.101  
「MotionDV STUDIO」
- ・DVDを楽しみたい ⇒ P.92  
「InterVideo WinDVD」



## 文書／表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「Microsoft Word」
- ・表やグラフを作りたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「Microsoft Excel」



## 便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい ⇒ 《サイバーサポート》  
「Acrobat Reader」
- ・地図で場所を調べたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「プロアトラス2002 for TOSHIBA」
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「駅すぱあと」
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「筆ぐるめ」
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「Microsoft Bookshelf Basic」
- ・携帯電話を快適に使いたい ⇒ 《サイバーサポート》  
「携快電話6in」





## パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい  
「Norton AntiVirus 2002」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい  
「Drag'n Drop CD」⇒『困ったときは 2章』



## パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい  
パソコンの基本情報を知りたい⇒『困ったときは 1章』  
「東芝PC 診断ツール」
- ・ハードウェアの設定を変えたい ⇒P.135  
「東芝 HW セットアップ」
- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい ⇒P.50  
「東芝コントロール」
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい ⇒《サイバーサポート》  
「Fn-esse」
- ・バッテリ駆動のときの省電力設定をしたい ⇒P.71  
「東芝省電力ユーティリティ」





# 1 章

## 本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使い方などを説明しています。

また、使いやすいうように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。使いこなしのテクニックが記載されています。  
各部の手入れについても確認してください。

---

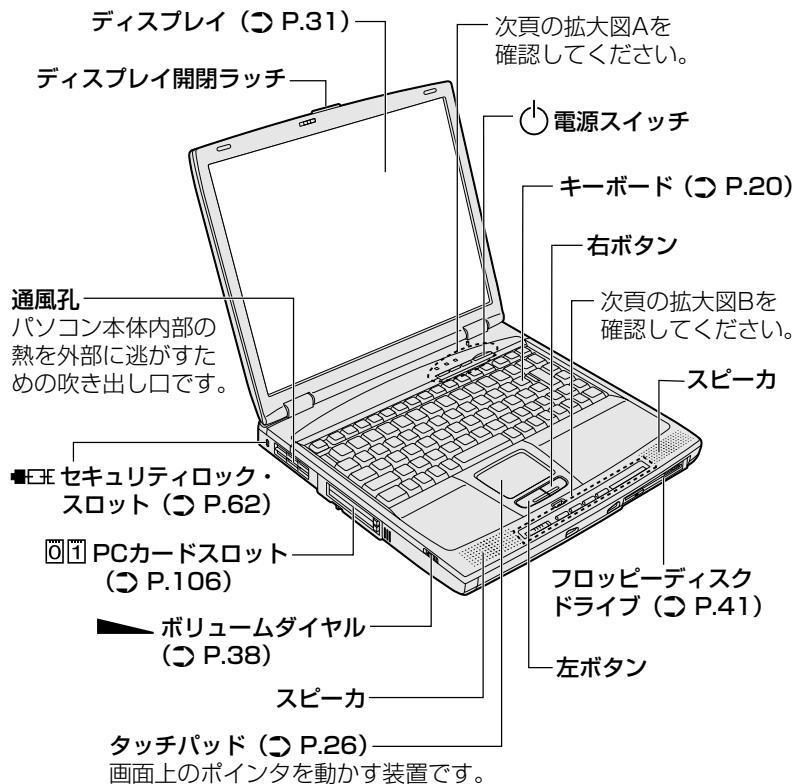
1	各部の名前	14
2	システムインジケータ	19
3	キーボード	20
4	タッチパッド	26
5	ディスプレイ	31
6	ハードディスクドライブ	37
7	サウンド機能	38
8	フロッピーディスクドライブ	41
9	マルチドライブ	47
10	ワンタッチボタン	50
11	新着メールをランプで確認する	52
12	内蔵モデムについて	59
13	セキュリティロック	62

# 1 各部の名前

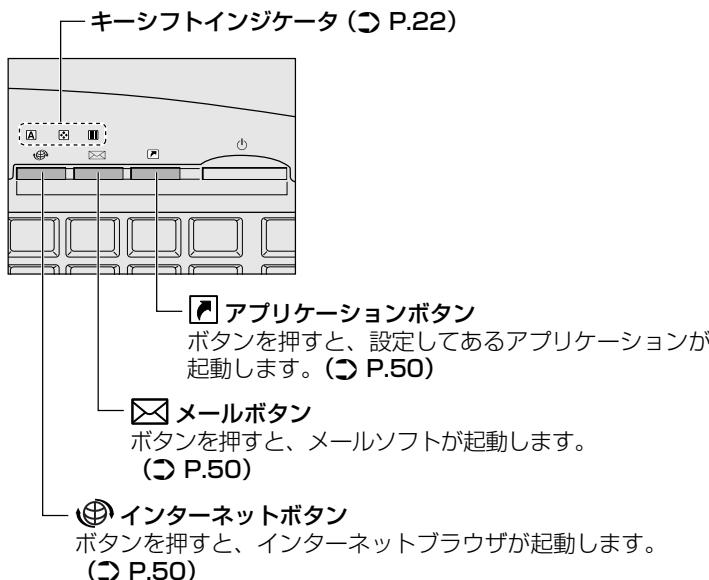
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

## 1 前面図



## 【拡大図 A】

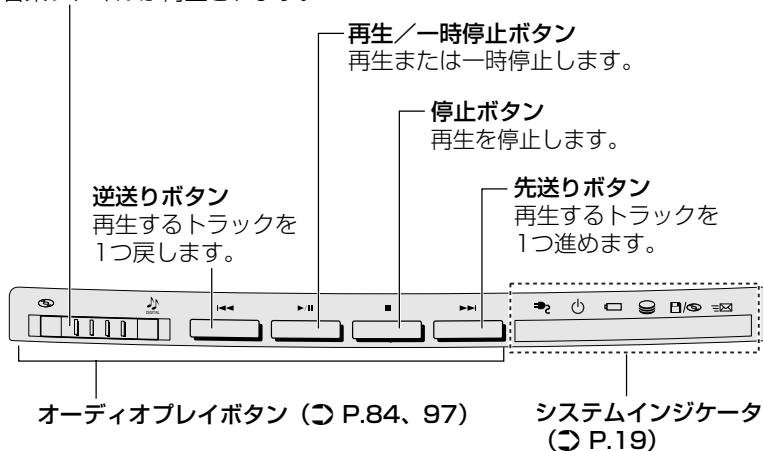


## 【拡大図 B】

## メディア切替スイッチ

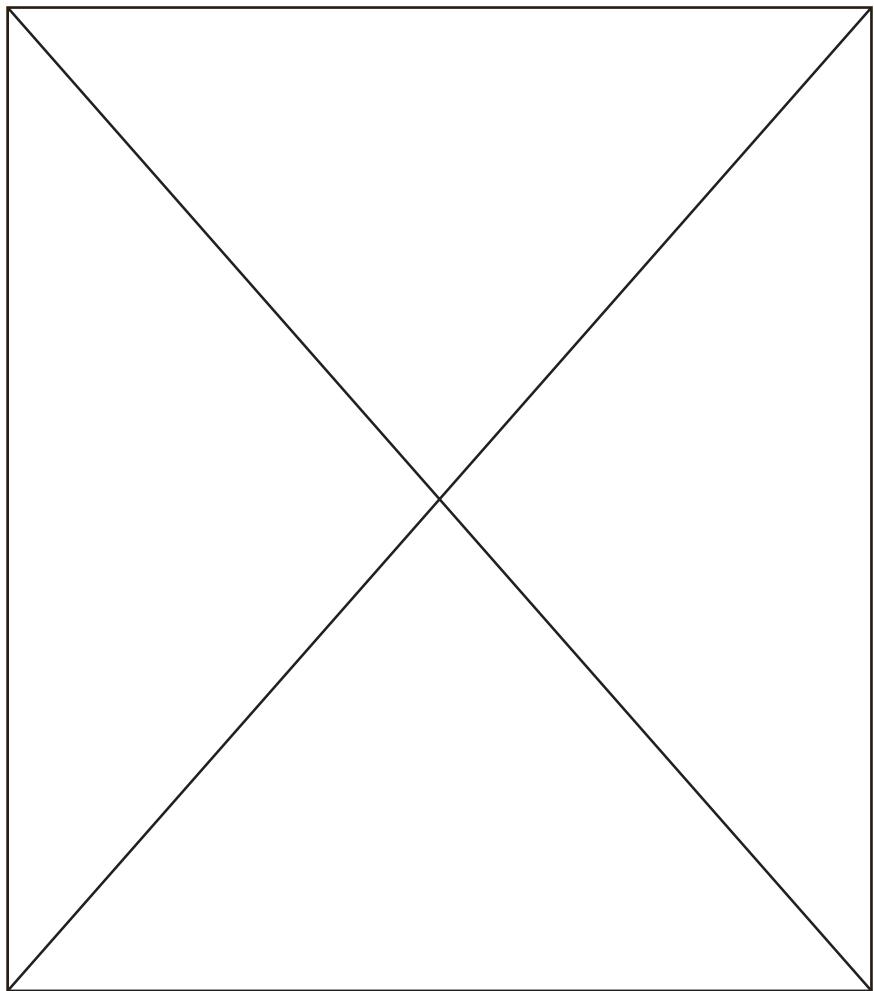
音楽CDおよびDVDを再生するか、Windows上で音楽ファイルを再生するかを切り替えます。

左 (⌚) ヘスライドすると音楽CD/DVD、右 (♪) ヘスライドすると音楽ファイルが再生されます。

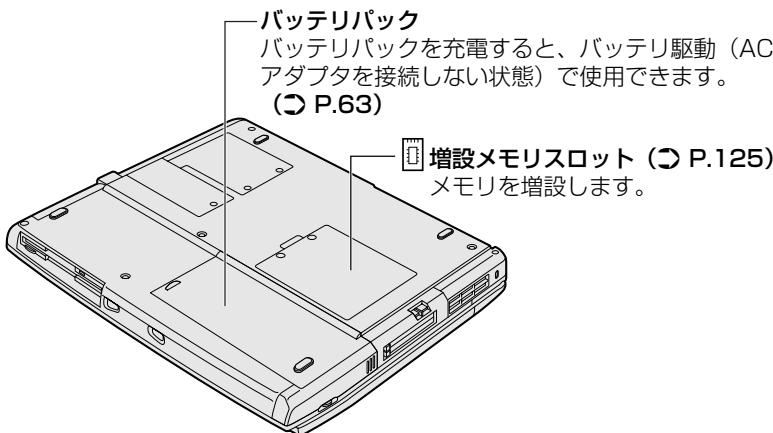


2

## 背面図



### 3 裏面図



#### ⚠ 注意

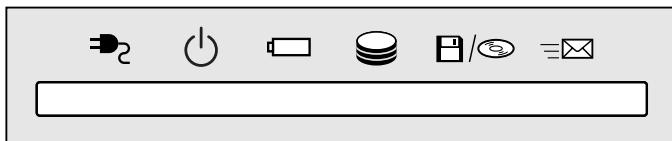
- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

## パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。  
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。  
温度5～35℃、湿度20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。  
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。

## 2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



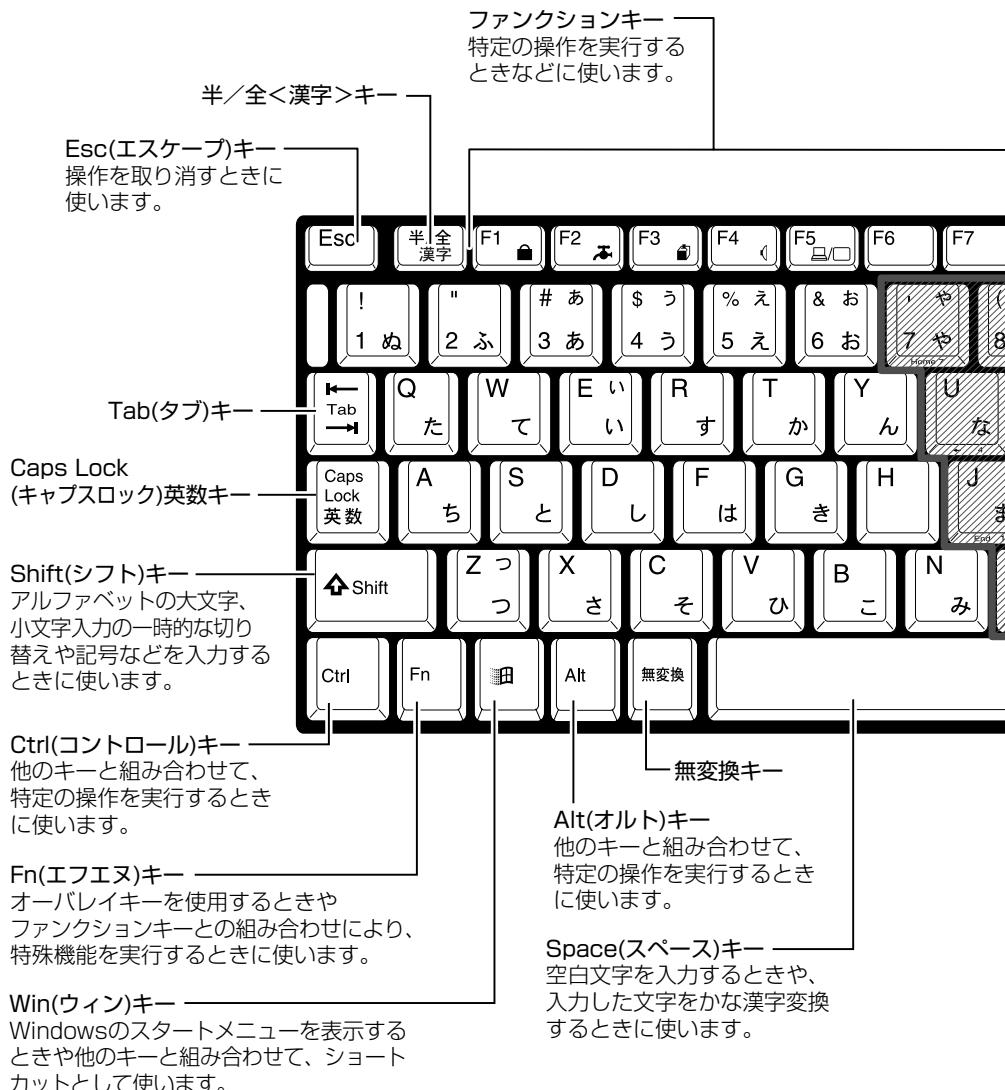
### 【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続 <a href="#">参照</a> 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態 <a href="#">参照</a> 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリの状態 <a href="#">参照</a> P.65
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている <a href="#">参照</a> P.37
	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスクドライブ、マルチドライブまたは CD-R/RW ドライブにアクセスしている <a href="#">参照</a> P.41、48、84、93
	メール着信ランプ	新着メールがある場合に点灯する <a href="#">参照</a> P.52、57

# 3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

## 1 キーボード図



参照 ➤ 文字入力について『基本をマスター 1章 3』

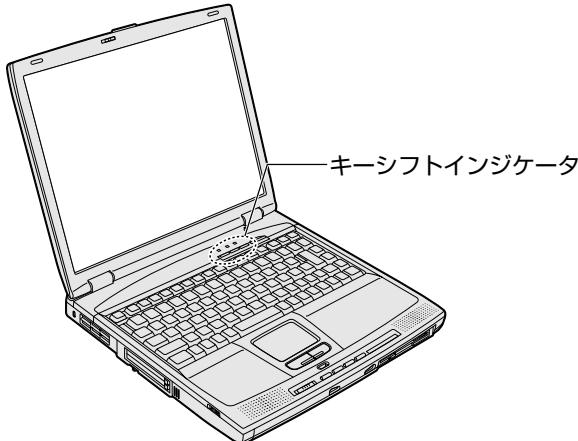
参照 ➤ 関連情報は「本節 ②、③」

### 3 キーボード



## 2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。



各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LEDが点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

### 【キーシフトインジケータ】

LED	キー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift)+(Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn)+(F10)	アロー状態 オーバレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn)+(F11)	数字ロック状態 オーバレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

### 3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

#### 【**(Fn)**キーを使った特殊機能キー】

キー	内容
<b>(Fn)</b> + <b>(F1)</b> 〈インスタントセキュリティ機能〉	表示画面をオフにし、キーボードやマウスから入力できなくします。解除するには、パスワードを設定している場合はパスワードを入力し、 <b>(Enter)</b> キーを押します。 パスワードを設定していない場合は <b>(Enter)</b> キーまたは <b>(Fn)</b> + <b>(F1)</b> キーを押します。 パスワードは、「東芝 HW セットアップ」で設定します。 パスワードの設定 参照 ➤ (P.136)
<b>(Fn)</b> + <b>(F2)</b> 〈省電力モードの設定〉	<b>(Fn)</b> + <b>(F2)</b> キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(F2)</b> キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
<b>(Fn)</b> + <b>(F3)</b> 〈電源スイッチを押したときの機能の選択〉	<b>(Fn)</b> + <b>(F3)</b> キーを押すと、電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）のメニューが表示されます。 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(F3)</b> キーを押すたびに、表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。
<b>(Fn)</b> + <b>(F4)</b> 〈アラーム音量の調節〉	アラーム音量を調節します。ビープ音で音量を知らせます。 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(F4)</b> キーを押すたびに音量が変わります。 [OFF→小→中→大]
<b>(Fn)</b> + <b>(F5)</b> 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 詳細について 参照 ➤ (P.113、117)
<b>(Fn)</b> + <b>(F10)</b> 〈アロー状態〉	キートップ前面左側に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう1度 <b>(Fn)</b> + <b>(F10)</b> キーを押します。

キー	内容
(Fn)+(F11) 〈数字ロック状態〉	キートップ前面右側に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション(Microsoft Excelなど)によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。

### 【田キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
田+R	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
田+M	すべてをアイコン化する
Shift+田+M	すべてのアイコン化を元に戻す
田+F1	『ヘルプとサポート』を起動する
田+E	[マイコンピュータ] 画面を表示する
田+F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl+田+F	他のコンピュータを検索する
田+Tsb	タスクバーのボタンを順番に切り替える
田+Break	[システムのプロパティ] 画面を表示する

## 【特殊機能キー】

特殊機能キー	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl)+(Alt)+(Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(Fn)+(Ins)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Fn)+(Alt)+(Del)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

## キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、ただちに購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

# 4 タッチパッド

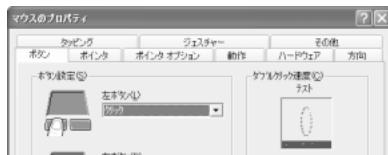
タッチパッドや右ボタン／左ボタンを、使いやすく設定できます。

## 1 タッチパッドを使いやすくする

タッチパッドやポインタの設定は、【マウスのプロパティ】で行います。

### 1 【マウスのプロパティ】の設定方法

- 通知領域の【タッチパッド】(■)アイコンをダブルクリックする  
画面が表示されます。



## 2 タッピング機能

各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。  
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

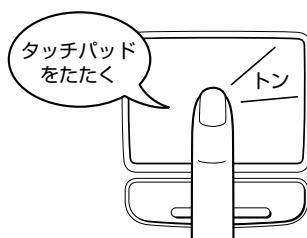
### 1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

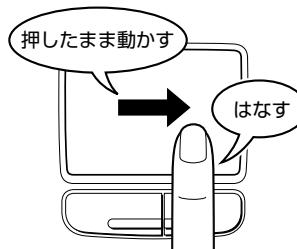
#### 【クリック / ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くとクリック、  
2回たたくとダブルクリックができます。



#### 【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、  
2回目はタッチパッドから指を離さずに  
目的の位置まで移動し、指を離します。



## 2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッピング] タブでできます。[タッピング] タブで設定できる機能は、次のようにになっています。



タッピング	チェックする（ <input checked="" type="checkbox"/> ）と、タッピング機能が使用できます。続けてタッピングするときの速度は、スライダーを動かして調節します。
ドラッグロックの設定	[ドラッグロック] をチェックすると、タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保てます。[自動解除] を選択すると一定時間経ったらドラッグ状態を解除し、[タッピングまたはクリックで解除] を選択するとタッピングまたはクリックでドラッグ状態を解除します。自動解除の時間は、スライダーを動かして調節できます。
キー入力時タップしない	チェックする（ <input checked="" type="checkbox"/> ）と、キーボードから文字を入力している間はタッピング機能が効かなくなります。入力中に意図しない場所をクリックしてしまうのを防ぐことができます。

### 3 タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作や、スクロール機能を設定できます。



左コーナーの設定	タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。
右コーナーの設定	
ブラウザ補助機能を使う	チェックする (☑) と、タッチパッドの上端に指を合わせて左右に動かしたときに、ブラウザの「進む」「戻る」の動作を行うことができます。
スクロール機能を使う	チェックする (☑) と、タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用できます。

#### 役立つ 操作集

#### ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[動作] タブでは速さを、[ポインタオプション] タブではポインタを動かしたときの軌跡を設定できます。



### 3) その他の設定

[その他] タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。



#### 【サウンドフィードバック】

[使用する] をチェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。

[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

[サウンド] タブの [プログラミイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

#### 【トレイアイコン】

[タスクバーにアイコンを表示する] をチェックすると、通知領域に [タッチパッド] アイコン (💻) が表示されます。

#### 【IMEキャプチャー】

[使用する] をチェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

#### 【イージーキャプチャーの設定】

イージーキャプチャー機能を使うと、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付けることができます。

イージーキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で「イージーキャプチャー」を指定しておきます。

---

## 【イージーランチャーの設定】

イージーランチャー機能とは、ランチャー画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。

イージーランチャー機能を使用する場合は、通知領域の「タッチパッド」アイコン(?)を右クリックし、表示されるメニューから「イージーランチャー」をクリックします。または、あらかじめ「ジェスチャー」タブの「左コーナーの設定」または「右コーナーの設定」で「イージーランチャー」を指定しておきます。

### ヘルプの起動方法

1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の をクリックする  
マウスポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい場所をクリックする  
説明文がポップアップで表示されます。

# 5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。

テレビと同じようにプラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 ➔ CRT ディスプレイの接続について「4 章 7」

## 表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け・常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるように管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、了承してください。

## 1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

### 1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1600 × 1200 ドット	65,536 色
1280 × 1024 ドット	65,536 色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色
640 × 480 ドット	1,677 万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

#### メモ

1,677 万色はディザリング表示です。

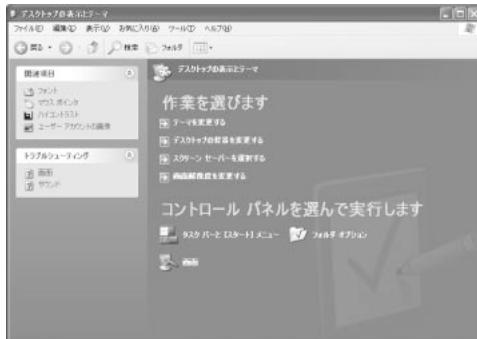
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

## 2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

### 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



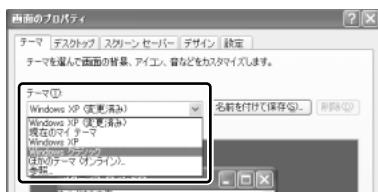
## デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

### 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

### 2 [テーマ] タブの [テーマ] で ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

### 3 [OK] ボタンをクリックする

## 壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windowsに用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

### 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [デスクトップの背景を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

### 2 [デスクトップ] タブの [背景] で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は [草原] を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル

bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。

- 画像の位置を指定する

画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。

[表示位置] で [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

### 3 [OK] ボタンをクリックする

## スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

### 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [スクリーンセーバーを選択する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

## 2 [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] で ▾ ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- [待ち時間] の時間（分数）を設定する

例えば、「5」に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。

- [パスワードによる保護]

チェックすると、スクリーンセーバにパスワードを設定することができます。

## 3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、Shift キーや Ctrl キーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

スクリーンセーバにパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されます。

ログオンパスワードを入力してください。

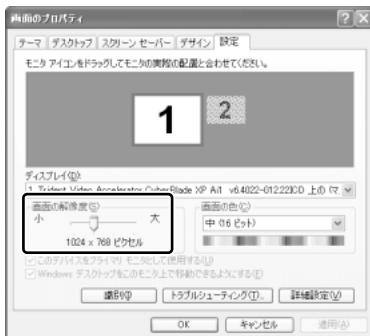
## 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

### 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

## 2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



## 3 [OK] ボタンをクリックする

### ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面] をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- [デザイン] タブの [配色] で、 ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。  
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

## 3 [OK] ボタンをクリックする

## 液晶ディスプレイの取り扱い

### 画面の手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入しています。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

### サイドライト用 FL 管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用 FL 管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用 FL 管（冷陰極管）は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

# 6 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

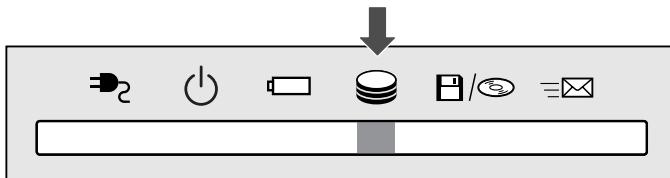
PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

## お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

## 1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK (IEEE1394) 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。

万一故障した場合に備え、バックアップを取ることを推奨します。

# 7 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカが付いています。

## 1 スピーカの音量を調整する

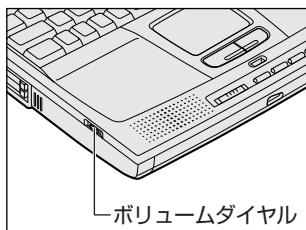
標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

サウンド機能は Microsoft Windows Sound System に適合しています。

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調整できます。

### 1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



### 2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする  
[マスタ音量] 画面が表示されます。

#### 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



## 【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-ROM、DVD-Video など
MIDI	MIDI ファイル
CD オーディオ	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

「マスタ音量」は使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

## 2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

### 1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする  
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする  
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする  
[マイク] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する  
同時に2つのデバイスを選択することはできません。  
録音したい音楽／音声が「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

### 3 システムスピーカについて

システムスピーカを設定すると、周辺機器の取り付け、取りはずしを音でしらせるなど、パソコンのハードウェアの状態を知ることができます。購入時は「鳴らす」に設定されています。

#### 1 設定方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする
- 3 [アラーム] タブで設定する  
鳴らす場合は [システムビープ音を鳴らす] をチェックします ( )。音量は [アラーム音量] のスライダーバーをドラッグして調整します。

# 8 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

## 1) フロッピーディスク

フロッピーディスクについて、説明します。

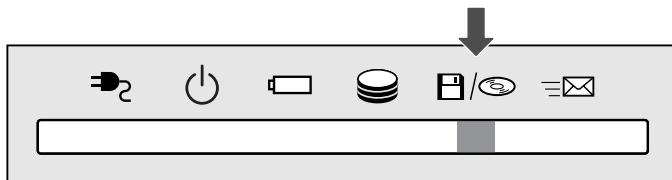
### 1 使用できるフロッピーディスクの種類

フロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

### 2 フロッピーディスクドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、フロッピーディスクとデータをやり取りしているときは、FDD/CD-ROM  LEDが点灯します。



## 2) フロッピーディスクのセットと取り出し

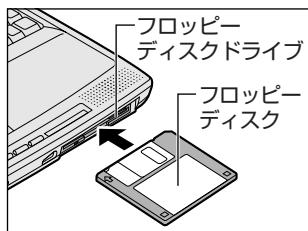
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

### 注意

パソコン本体の電源が入っている場合で、FDD/CD-ROM  LEDが点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンに触れたり、パソコン本体を動かしたりしないでください。フロッピーディスクのデータやフロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

## 1 フロッピーディスクのセット

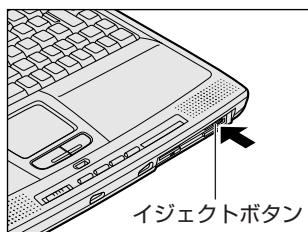
- 1 フロッピーディスクの隅に示されている矢印の向きにあわせて挿入する



「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

## 2 フロッピーディスクの取り出し

- 1 イジェクトボタンを押す



フロッピーディスクが少し出でます。そのまま手で取り出します。

## 3 フロッピーディスクの内容を確認する

- 1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする  
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

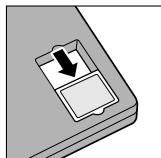
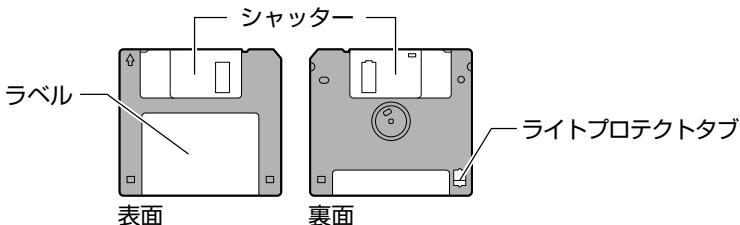
- 2 [ 3.5インチ FD (A:) ] をクリックする

[3.5インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

### 3 フロッピーディスクを使う前に

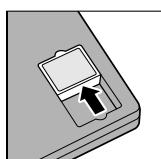
#### 1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

#### 2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

##### お願い

- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

---

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

### 【 クイックフォーマット 】

以前にフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

### 【 MS-DOS の起動ディスクを作成する 】

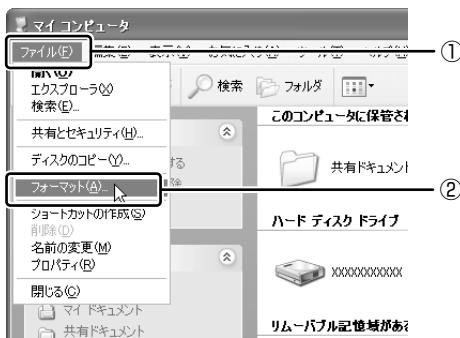
MS-DOS の起動ディスクを作成します。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

## 3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳細については、『ヘルプとサポート』を確認してください。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする  
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする  
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

#### 4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②



アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

画面はマルチドライブモデルの場合の表示例です。

[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面が表示されます。

#### 5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、[クイックフォーマット] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

#### 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

#### 7 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ (A:)] 画面で [閉じる] ボタン (X) をクリックしてください。

## フロッピーディスクドライブの取り扱い

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

## フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。  
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめ了承してください。
- シャッターポートを開けて磁性面を触らないでください。  
汚ると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。  
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。  
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
- 3.5型フロッピーディスクは当社の次の製品を使用してください。  
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号：M4293	2HD 形式
製品番号：M4216	2DD 形式

# 9 マルチドライブ

本製品にはマルチドライブが内蔵されています。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。

CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

## お願い

- DVD-Video再生時は、ACアダプタを接続した状態で使用することを推奨します。
- また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。

## 1) CD／DVDについて

CD、DVDについて説明します。

### 1 使用できるCD

読み込みできるCDは、次の種類です。

- 音楽用CD  
8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD  
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録されています。
- CD-ROM  
使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ  
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-R メディアに書き込む際には、8 倍速対応 CD-R メディアを使用してください。

- CD-RW

CD-RW メディアに書き込む際には、1 / 2 / 4 倍速対応（マルチスピード）

CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW（4 ~ 10 倍速）対応メディアを使用してください。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大 8 倍速になります。

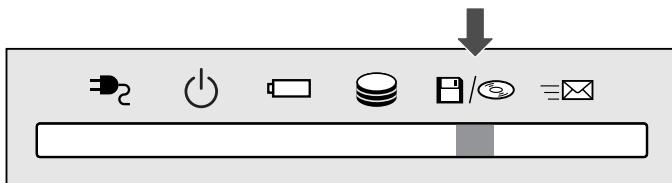
## 2 使用できるDVD

読み込みできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）

## 3 マルチドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、マルチドライブが動作しているときは、FDD/CD-ROM  LED が点灯します。

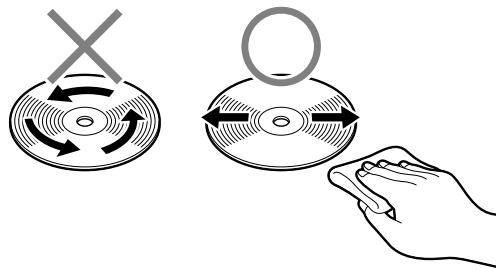


## CD／DVD の取り扱いと手入れ

CD／DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- CD／DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD／DVD を読み込むことができなくなります。
- CD／DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD／DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD／DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD／DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD／DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。

- CD／DVDが汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。  
円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



# 10 ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトを起動することができる、3つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン ..... Internet Explorer
- メールボタン ..... Microsoft Outlook
- アプリケーションボタン ..... なし（よく使うアプリケーションを設定しておくと便利です）

## 【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

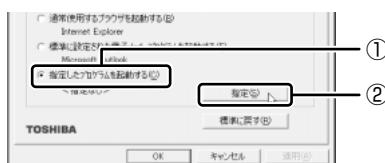
## 【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

### 1 アプリケーションを変更する

各ボタンを押して起動するアプリケーションを、自由に設定することができます。ここでは、アプリケーションボタンに「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。

- 1 [コントロールパネル]を開き、[プリンタとその他のハードウェア]をクリックする
- 2 [東芝コントロール]をクリックする  
[東芝コントロールのプロパティ]画面が表示されます。
- 3 [ボタン]タブで [アプリケーションボタン]をクリックする
- 4 [プログラムの選択]で [指定したプログラムを起動する]が選択されていることを確認し①、[指定]ボタンをクリックする②



購入時は、次のように設定されています。

[通常使用するブラウザを起動する] : Internet Explorer の起動。

[標準に設定された電子メールプログラムを起動する]

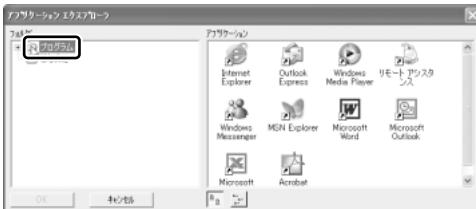
: Microsoft Outlook の起動。再セットアップ後は、Outlook Express が起動します。

[指定] 画面が表示されます。

## 5 [アプリケーション] ボタンをクリックする

[アプリケーションエクスプローラ] 画面が表示されます。

## 6 [フォルダ] の [プログラム] をダブルクリックする



[プログラム] フォルダの内容が表示されます。

## 7 [アクセサリ] をクリックしてから① [アプリケーション] の [ペイント] アイコン ( ) をクリックし②、[OK] ボタンをクリックする

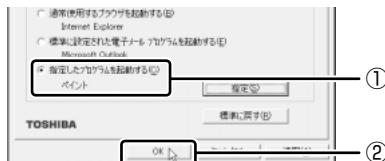


[指定] 画面に戻ります。

## 8 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

## 9 設定したアプリケーションボタンの下に「ペイント」と表示されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②

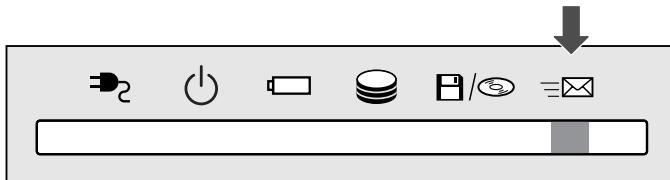


アプリケーションボタンにペイントが設定されます。

# 11 新着メールをランプで確認する

メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的にWindowsを起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。

新着メールが届いていると、メール着信ランプが緑色に点灯します。



新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

## 【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ずACアダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

## 1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

### 1 Windowsログオンパスワードを設定する

新着メールチェック機能を設定するには、Windowsのログオンパスワードの入力が必要です。あらかじめWindowsのログオンパスワードを設定しておいてください。

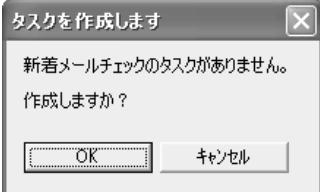
参照 ➤ Windowsのログオンパスワードについて『基本をマスター 4章』

## 2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。

「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする
- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定]をクリックする



この操作を初めて行った場合、「タスクを作成します」画面が表示されます。

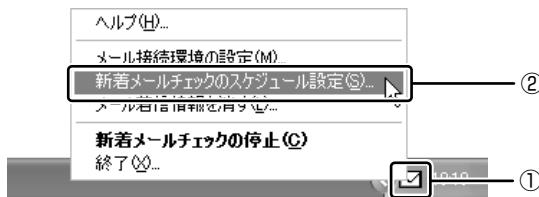
次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする  
[アカウント パスワードを設定してください。] 画面が表示されます。
- ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の 2カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する  
Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう 1 度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。
- ③ [OK] ボタンをクリックする
- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする (☑)
- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする (☑)  
チェックしておくとパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン (✉) が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。
- 6 [OK] ボタンをクリックする  
通知領域に [メール] アイコン (✉) が表示されます。  
続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

### 3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

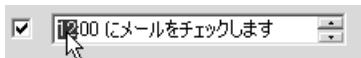
- 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし①、表示されたメニューから【新着メールチェックのスケジュール設定】をクリックする②



- 【基本設定】タブで【スケジュール】を設定する



- 【開始日】でチェックを開始する日を設定する  
ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。
- 【継続日数】でチェックを続ける期間を設定する  
最大30日まで設定できます。
- ③何時に新着メールチェックを行うか設定する  
1日に最大3回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェックボックスをチェックします(✓)。  
時間を設定するには、設定したい【時間】【分】にポインタをあわせてクリックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



- 【詳細設定】タブで【タスクの実行時にスリープを解除する】をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能を使用するときにチェックします。

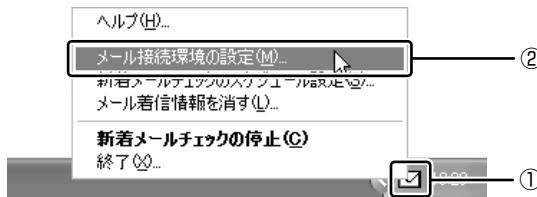
- 【OK】ボタンをクリックする

## 4 新着メールチェックの接続環境を設定する

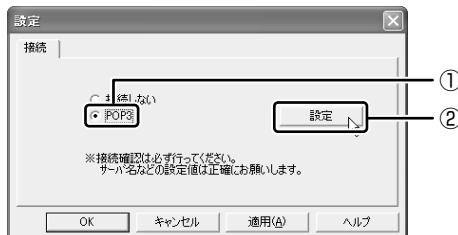
初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メールの有無だけを確認できます。メールの内容を確認することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフトで送受信を行う必要があります。

- 通知領域の【メール】アイコン（✉）を右クリックし①、表示されたメニューから【メール接続環境の設定】をクリックする②



- 【接続】タブで【POP3】をチェックし①、【設定】ボタンをクリックする②



- 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている  
【サーバ名】 【ユーザ名】 【パスワード】 を入力してください。

- [OK] ボタンをクリックする

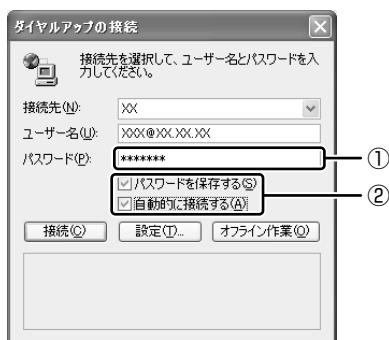
- 【設定】画面で [OK] ボタンをクリックする

## 5 インターネットへの接続の設定

- 1 AC アダプタとモジュラーケーブルを接続する
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 3 [インターネットオプション] をクリックする  
[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 Internet Explorer を起動する

参照 Internet Explorer の起動方法 『基本をマスター 2 章』

- 6 [ダイヤルアップの接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② (  )



- 7 [接続] ボタンをクリックする

一度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン (  ) をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップの接続] 画面が消えます。

- 8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン (  ) をクリックする
- 9 [今すぐ切断する] をクリックする  
インターネットへの接続が終了します。

## 11 新着メールをランプで確認する

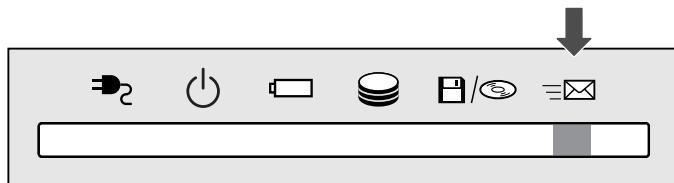
## 6 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときに、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

参照 ➔ スタンバイの実行、休止状態について「[2章 3](#)」

## 2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。新着メールがあると、メール着信ランプが緑点灯します。



## 1 メール着信ランプを消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもメール着信ランプは消えません。この場合、次の方法でメール着信ランプを消してください。

- 通知領域の【メール】アイコン( )を右クリックし、表示されるメニューから【メール着信情報を消す】をクリックする  
メール着信ランプが消えます。

## 3 新着メールチェックを停止する

### 1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 通知領域の【メール】アイコン( )を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの停止】をクリックする  
アイコンが( )に変わり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

## 2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の【メール】アイコン（✉）を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの開始】をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、【OK】ボタンをクリックする  
アイコンが（✉）に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

## 3 新着メールチェック機能を終了する

- 1 通知領域の【メール】アイコン（✉）を右クリックし、表示されるメニューから【終了】をクリックする  
アイコンの表示が消えます。  
この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節 1 - 【メール】アイコンを通知領域に表示する（新着メールチェック機能を開始する）」を確認してください。
- 2 表示されるメッセージを確認し、【OK】ボタンをクリックする

# 12 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

## お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
  - 分岐アダプタとは  
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
  - 回線切換器とは  
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

## 1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年1月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。  
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく  
変更できない場合があります。

## 1 設定方法

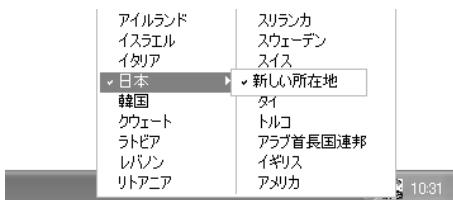
- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする  
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン (  ) が通知領域に表示されます。



- 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン (  ) をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



- 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

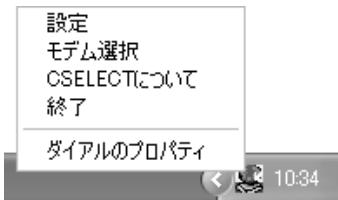
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。  
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

## 2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン（）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



### 【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

### 【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

### 【ダイアルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

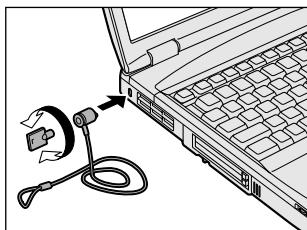
# 13 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

## 1 セキュリティロック用機器の取り付け

### 1 セキュリティロック・スロットにセキュリティロック用の機器（別売り）を接続する



PC カードロックを有効にした後セキュリティロックをすると、PC カードの取り付け／取りはずしはできなくなります。PC カードの取り付け／取りはずしを行う場合は、セキュリティロック→PC カードロックの順に解除してください。

## 2章

# バッテリ駆動

ノートパソコンのユーザにとって大事な存在であるバッテリは、使い方によっては長持ちさせることができます。

ここでは充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

- 
- 1 バッテリについて 64
  - 2 省電力の設定をする 71
  - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 76

# 1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。

バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。

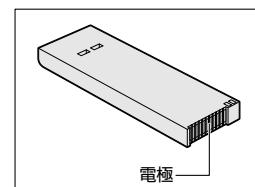
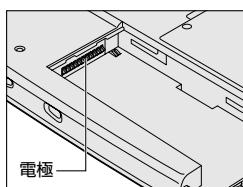
冊子『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

## ⚠ 警告

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック:PABAS011）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがありますため発煙、火災のおそれがあります。

## ⚠ 注意

- バッテリパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。  
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。  
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。  
バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

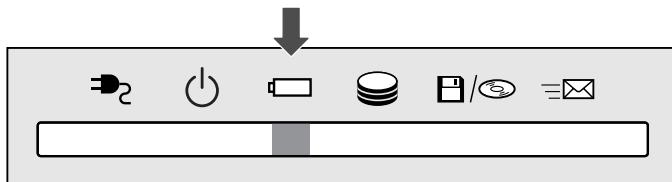


## 1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

### 1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バッテリが接続されていない</li> <li>・ACアダプタが接続されていない</li> <li>・バッテリ異常</li> </ul>

### 2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。



参照 ➤ 省電力設定について「本章 2」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行なないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery □ LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

### 3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery □ LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- 警告音（ビープ音）が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery □ LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

### 時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。

時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

#### 【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリ
電源 ON (Power ⏪ LED が点灯)	10 時間以上
電源 OFF (Power ⏪ LED が消灯)	ほとんど充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

## 2) バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

### お願い

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
- あります。バッテリは 10 ~ 30°C の室温で充電してください。

### 1 充電方法

#### 1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず充電されます。

#### 2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

### 【充電完了までの時間】

状態	充電時間
電源 ON	約 4 ~ 11 時間
電源 OFF	約 3 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

### 【充電完了の状態で使用できる時間】

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

省電力モード	動作時間
ノーマル	約 2.0 時間 (注) BatteryMark V4.0.1 で計測

## 【充電完了の状態で使っていなときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しづつ減っていきます。1ヶ月以上の長期間にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用した場合でも、バッテリ充電量は少しづつ減少します。いずれの場合も、放置環境などによって異なります。

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約2週間

## 2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
  - 1ヶ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
  - 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
- その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

### 1 パソコン本体の電源を切る

### 2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

### 3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

### 4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

### 5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

## バッテリを節約する

バッテリを節約してバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

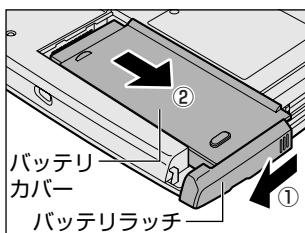
- こまめに休止状態にする 参照 「本章 3」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく 参照 「本章 3」
- 省電力モードに設定する 参照 「本章 2」

## ③ バッテリパックを交換する

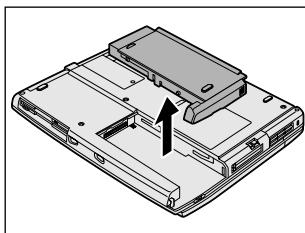
バッテリパックの交換方法を説明します。バッテリパックの取り付け / 取りはずしは、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

### 1 取り付け／取りはずし

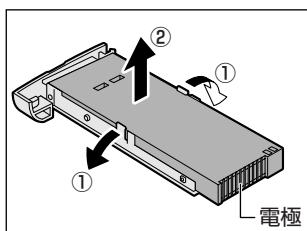
- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする  
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリラッチを横に押し①、バッテリカバーをスライドさせる②



- 7 バッテリパックごと、バッテリカバーを取り出す



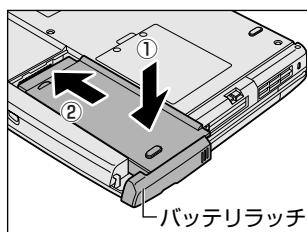
## 8 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す



バッテリカバーのツメを左右に広げ①、  
バッテリパックを取りはずします②。

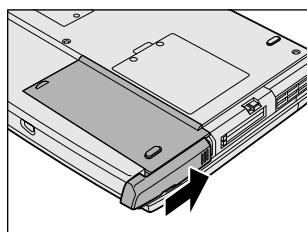
## 9 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

## 10 バッテリラッチが左側にあることを確認し、バッテリパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②



注意して差し込んでください。

## 11 バッテリラッチをスライドさせ、バッテリパックを固定する



# 2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

## 1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

### 1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする  
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

### 2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。



#### 【電源に接続】①、【バッテリを使用中】②

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。【電源に接続】【バッテリを使用中】はACアダプタ接続／バッテリ駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

### フルパワー③

最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

### ロングライフ④

消費電力を優先して省電力制御を行います。

### ノーマル⑤

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリを使用中]（バッテリ駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。

### ハイパワー⑥

性能を優先して省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項省電力モードの詳細設定」を確認してください。

## 【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする  
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

## 【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする  
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

## 【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする（）と現在の省電力モードを示す省電力アイコン（）が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

### 3 [休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



参照 ➔ 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

### 4 省電力モードの詳細設定

- [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワーのどれか）を選択し、[詳細]ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。

① ② ③ ④



#### 【全般】タブ①

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

#### 【省電力】タブ②

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

#### 【動作】タブ③

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

## メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

## 【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

## お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
  - ・誤った使いかたをしたとき
  - ・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  - ・バッテリが消耗したとき
  - ・故障、修理、バッテリ交換のとき
  - ・バッテリ駆動で使用中にバッテリパックを取りはずしたとき
  - ・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。  
Disk  LEDが点灯中は、バッテリパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

## 【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態にして電源を切れます。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

## 【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

## 【アラーム】タブ④

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

【アラーム】タブは【電源設定】タブで【バッテリを使用中】に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

## 5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 参照 複数のユーザで使用する場合は『基本をマスター 4章』

### 詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 【東芝省電力ユーティリティ】を起動後、画面右上の  をクリックする  
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

## お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

## 1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。データの消失を防ぐため、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

### 1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



## 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

## 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

### 2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

### 1 休止状態の実行方法

#### 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
  - ② [東芝省電力] をクリックする
  - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
  - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

#### 2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



### 3 [Shift]キーを押しながら【休止状態】をクリックする

[Shift]キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Disk LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。

## ③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

### 1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。本項②-1 手順1 を参照して、設定しておいてください。

[Fn]+[F3]キーを使用して、電源スイッチを押したときの動作を切り替えることができます。

参考 ➤ 詳細について「1章 3-③」

### 1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

## 2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の④で「入力を求める」を選択したときは、「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

## 2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じたときに自動的にパソコンの使用を中断する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。本項②-1 手順1を参照して、設定しておいてください。

### 1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② 「東芝省電力」をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの「コンピュータを閉じたとき」で「スタンバイ」「休止状態」のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ 「東芝省電力のプロパティ」画面で [OK] ボタンをクリックする

## 2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で作業を中断します。

次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。



## 3章

# 音楽と映像

本製品で楽しめる音楽と映像に関して、さまざまなお話を説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それを CD に書き込んでオリジナルを作成する。写真や Video 映像を観る。それらを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみ方を紹介します。

---

1 音楽CDを聴く	82
2 音楽ファイルを聴く	85
3 オリジナル音楽CDを作る	89
4 DVD-Videoを観る	92
5 デジタルカメラの写真を編集 / 整理する	98
6 動画を編集する	101

# 1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

## メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

## 1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品にインストールされている Windows Media Player を起動します。

### 1 起動方法

#### 1 音楽 CD をセットする

ドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

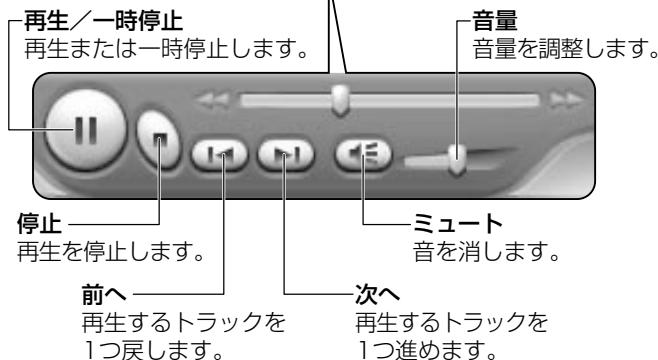
参照 ➔ CD のセットについて 『基本をマスター 1 章 1』

#### 2 [オーディオ CD の再生 Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

#### 3 画面のボタンで操作する

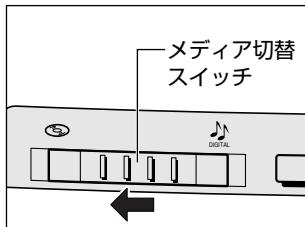
「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



## メディア切替スイッチで起動する

メディア切替スイッチを使って、アプリケーションを起動することができます。

### 1 メディア切替スイッチを左（○）へスライドする



## ヘルプの起動方法

### 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

➡ 「Windows Media Player」の問い合わせ先『困ったときは付録』

## 2) Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

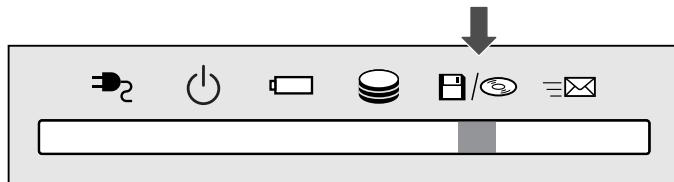
オーディオプレイボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

### 1 操作方法

電源を入れてから 2 分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源が OFF になります。FDD/CD-ROM / LED が消灯します。その場合は、もう 1 度メディア切替スイッチを左へスライドして、電源を入れ直してください。

#### 1 メディア切替スイッチを左 () ヘスライドする

ドライブの電源が入り、FDD/CD-ROM / LED が緑点灯します。  
Power  LED は点灯しません。



#### 2 音楽 CD をセットする

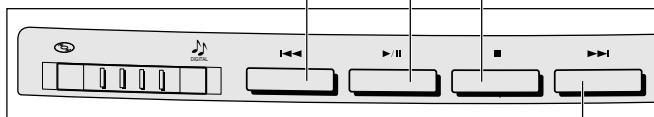
ドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

#### 3 オーディオプレイボタンで操作する

再生／一時停止ボタン  
再生または一時停止します。

逆送りボタン  
再生するトラックを  
1つ戻します。

停止ボタン  
再生を停止します。



先送りボタン  
再生するトラックを1つ進めます。

#### 4 終了する場合は、音楽 CD を取り出してからメディア切替スイッチ を左 () ヘスライドする

FDD/CD-ROM / LED が消えるまでスライドしておいてください。

# 2 音楽ファイルを聴く

「Windows Media Player」で次のような音楽ファイルを再生できます。

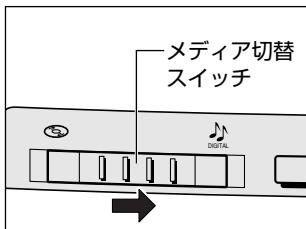
- WAVE形式 (.wav)
- MIDI形式 (.mid)
- MP3形式 (.mp3) など

## 1 Windows Media Player を起動する

メディア切替スイッチを使ってアプリケーションを起動することができます。

### 1 起動方法

#### 1 メディア切替スイッチを右 (♪ DIGITAL) ヘスライドする



CDをセットした場合、標準では「Windows Media Player」が起動します。

## 2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

### 1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

#### 1 メニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする

## 2 ファイルを選択し①、聴きたい曲の【開く】ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

## 2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

### 1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする
  - ① 音楽 CD をセットする
  - ② [CD からコピー] ボタンをクリックする
  - ③ コピーするトラックをチェックする
  - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
  - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
  - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
  - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
  - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

### 2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



### 3 [すべてのオーディオ] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

### 4 [新しい再生リスト] ボタンをクリックする



### 5 [新しい再生リスト] 画面で、再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として「新規リスト」とします。

[新規リスト] が [再生リスト] フォルダに追加されます。

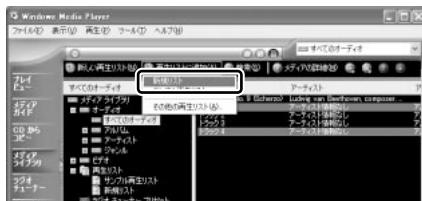
### 6 メディアライブラリの中から再生リストに追加するファイルをクリックする



### 7 [再生リストに追加] ボタンをクリックしてメニューを表示し、目的の再生リストを選択する

ファイルが再生リストに追加されます。

例として「新規リスト」を選択します。



新しい再生リストが作成されました。

### 3 再生リストから再生する

- 1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

- 2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

# 3 オリジナル音楽CDを作る

本製品では、CD-RW、CD-Rにデータを書き込むことができるアプリケーション「Drag'n Drop CD」を使用して、オリジナルの音楽CDを作成できます。

## 1) Drag'n Drop CDを使うために

### お願い CD-RW、CD-Rに書き込む前に

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らざるに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、使用しているパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

- CD-Rメディアに書き込む際には、8倍速対応CD-Rメディアを使用してください。
- CD-RWメディアに書き込む際には、1／2／4倍速対応（マルチスピード）CD-RWメディアまたはHigh-Speed CD-RW（4～10倍速）対応メディアを使用してください。High-Speed CD-RW対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大8倍速になります。
- 次のメーカーのCD-RW、CD-Rを使用することを推奨します。

CD-RW：三菱化学（株）、リコー（株）

CD-R：太陽誘電（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）、リコー（株）、日立マクセル（株）

上記以外のメーカーのCD-RW、CD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- フロッピーディスクドライブ、PCカードタイプのハードディスクドライブ、USB接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 本製品に添付の「Drag'n Drop CD」以外のCD-RW、CD-R書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
- スクリーンセーバなどCPUに負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

 省電力機能について 「2章 2」

- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

### お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。  
PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、PRT コネクタに接続する機器、i.LINK 対応機器、PS/2 コネクタに接続する機器、COMMS コネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- メディア切替スイッチを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

## 1 インストール方法

### 1 添付の CD をセットする

参照 ➤ CD のセット 『基本をマスター 1 章 1』

- 2 表示された画面で、[Drag'n Drop CD のセットアップ] をクリックする
- 3 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD」をインストールする
- 4 再起動する

## 2 Drag'n Drop CDを使う

インストールすると「Drag'n Drop CD」は自動的に起動され、デスクトップ上にアイコンを表示します。

「Drag'n Drop CD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

### 1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD] をクリックする
- デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

### 2 Drag'n Drop CDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



[Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。

音楽ファイルをこのボックスにドラッグすると [Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。

[DISC Backup BOX]

CDのバックアップを作成するときに使用します。

データCDや音楽CDなど、CDアイコンをこのボックスにドラッグすると、同じものをCD-RW、CD-Rでもう1枚作成できます。

[Data BOX]

データをCD-RW、CD-Rにバックアップするときに使用します。

CD-RW、CD-Rに書き込みたいデータファイルのアイコンをこのボックスにドラッグすると、CD-RW、CD-Rに書き込まれます。

「Drag'n Drop CD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。

### ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD のヘルプ] をクリックする
- 「Drag'n Drop CD」のヘルプが表示されます。
- 参照** ➡ 「Drag'n Drop CD」の問い合わせ『困ったときは 付録 1』

# 4 DVD-Video を観る

本製品は、マルチドライブにDVD-Videoをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video再生ソフトウェアとして、「InterVideo WinDVD」が用意されています。

## お願い DVD-Videoの再生にあたって

「InterVideo WinDVD」でDVD-Videoを再生する場合、次のことに気をつけて使用してください。

DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CDの再生はサポートしていません。

- DVD-Video再生時は、ACアダプタを接続してください。また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
  - DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動しないでください。  
その他の注意については、「Readme」に記載しています。
- 「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [Readme] をクリックしてください。

## 1 InterVideo WinDVDを起動する

「Inter Video WinDVD」はWindowsからでも、Windowsが起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

### 1 Windowsから起動する

#### 1 DVD-Videoをセットする

[DVD\_VIDEO (D:)] 画面が表示されます。

参照 ➤ DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1』

## 2 [Play DVD movie InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、[OK] ボタンをクリックする②



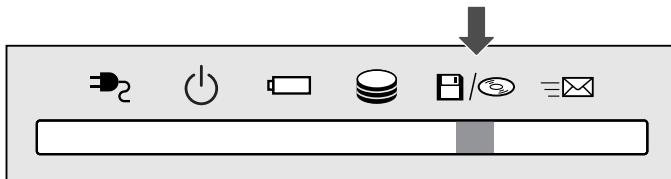
「InterVideo WinDVD」が起動します。

## 2 メディア切替スイッチから起動する

Windows が起動していないときに、メディア切替スイッチで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

### 1 メディア切替スイッチを左 (⌚) ヘスライドする

ドライブの電源が入り、FDD/CD-ROM ⚡/⌚ LED が緑点灯します。  
Power ⚡ LED は点灯しません。



## 2 DVD-Video をセットする

Windows が起動した後、「InterVideo WinDVD」が起動します。Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。

DVD-Video を再生する場合は、続けて [再生] ボタンをクリックしてください。

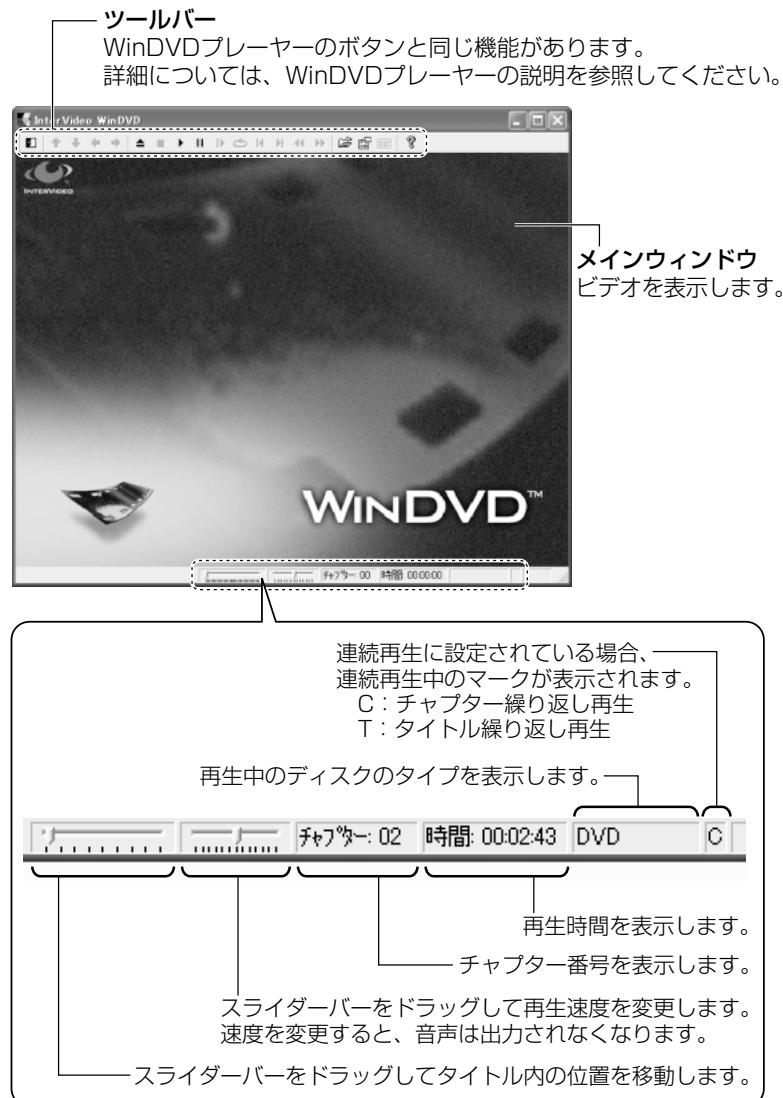
## 2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」の操作ボタンの役割は次のとおりです。

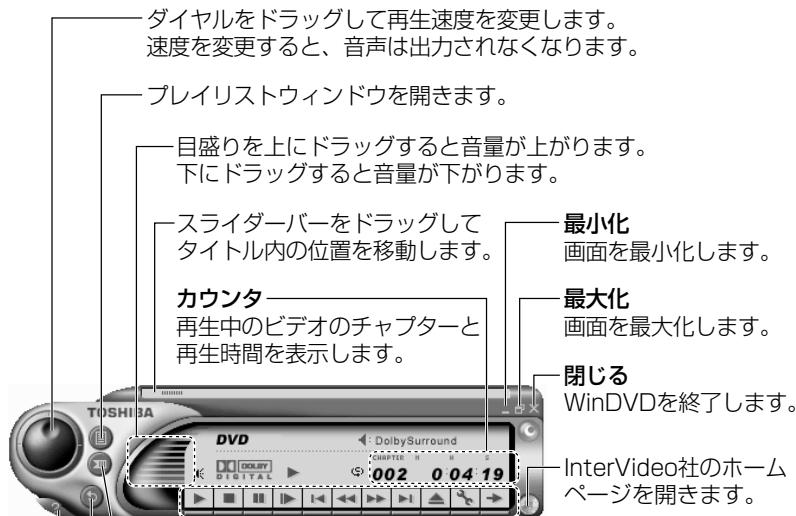
再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。

また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

## 1 ビデオ表示ウィンドウ



## 2 WinDVDプレーヤー



**ブックマーク**  
ブックマーク（しおり）を記録できます。

**リピート**  
タイトルまたはチャプターを繰り返し再生します。

**ヘルプ**  
ヘルプを表示します。

### 再生

再生を開始します。

**停止**  
再生を停止します。

**ポーズ**  
再生を一時停止します。

**ステップ再生**  
一時停止中に押すと、  
1コマずつ再生できます。

**イジェクト**  
ディスクトレイを開きます。

**プロパティ**  
プロパティ画面を表示  
します。

**拡張コントローラ**  
を表示します。

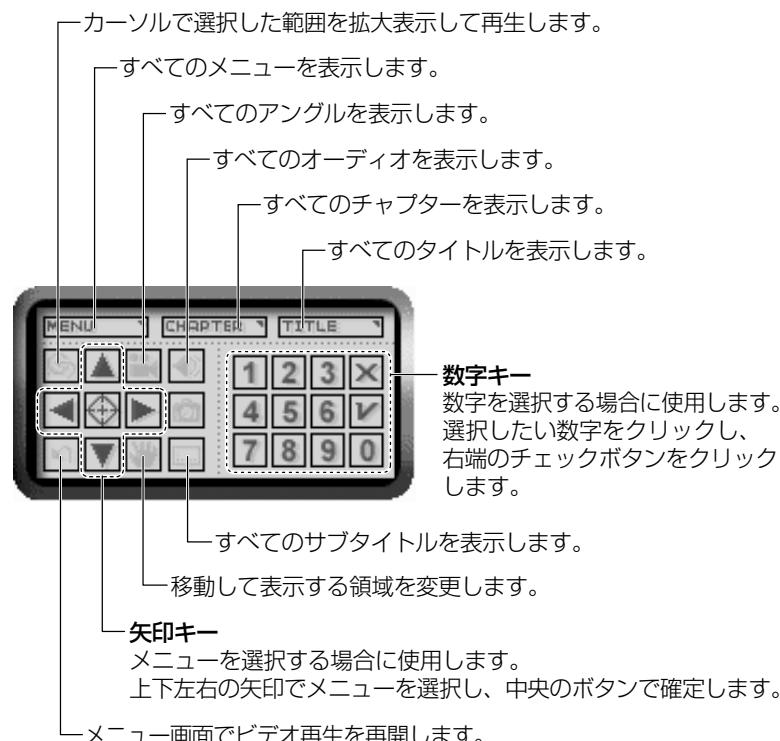
**前のチャプター**  
前のチャプターに戻ります。

**早戻し**  
早戻し再生します。

**次のチャプター**  
次のチャプターに進みます。

**早送り**  
早送り再生します。

### 3 拡張コントローラ

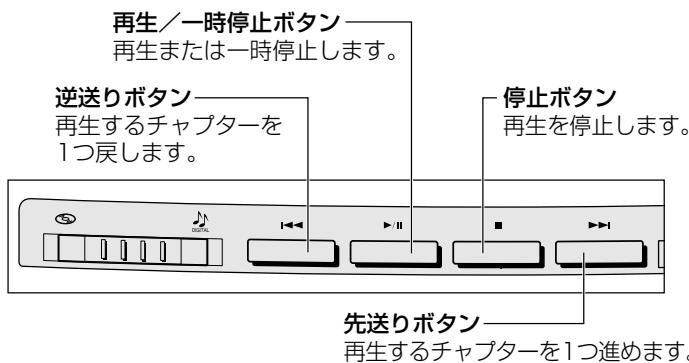


### 4 プロパティの設定

- ビデオ表示ウィンドウの [プロパティ] ボタン ( ) または WinDVD プレーヤーの [プロパティ] ボタン ( ) をクリックする  
[プロパティ] 画面が表示されます。  
各タブで設定を行ってください。

## 5 オーディオプレイボタンで操作する

DVD-Video の基本操作は、オーディオプレイボタンを使うこともできます。



## 6 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「Inter Video WinDVD」を起動する前にやってください。

**参照** テレビの接続、表示装置の切り替え「4章 5」

### 【TVに接続してWinDVDを使用するとき】

- 本製品では、TVでのDVD-Video再生とLCDの同時表示をサポートしていません。TV表示またはLCD表示に設定を切り替えて使用してください。
- [(マルチモニタ)とTrident Video Accelerator CyberBlade XP Ai…] 画面で[ディファレントリフレッシュノート]のチェックをはずし、設定を無効にしてください。

### ヘルプの起動方法

- 1 ビデオ表示ウィンドウの [ヘルプ] ボタン (?) または WinDVD プレーヤーの左下部にある [ヘルプ] ボタン ( ? ) をクリックする

**参照** 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先『困ったときは付録』

# 5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」が用意されています。

## 1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

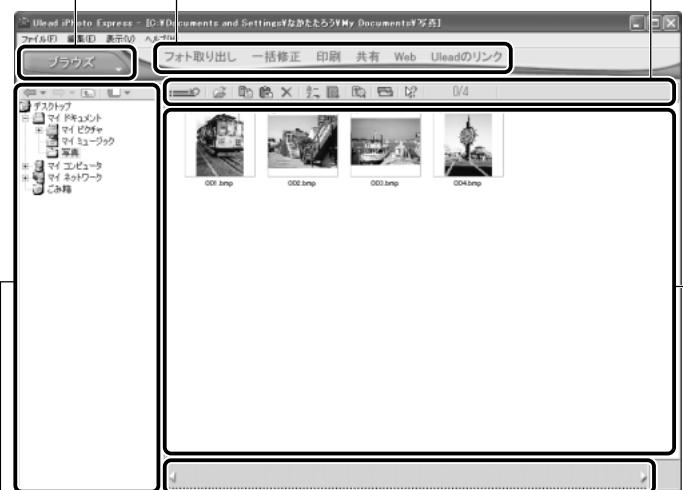
### 1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

モードを選択します。ブラウズモード、フォトモード、プロジェクトモードから選択できます。

ショートカットバー  
よく使う操作をボタンから行うことができます。

コマンドパネル  
モードによってコマンドが変わります。  
作業領域で行う作業を選択します。



#### オプションパネル

コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

#### サムネイルリスト

開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。

#### 作業領域

イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を初めて起動したときは、[ユーザ登録] 画面が表示されます。

## 2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 [フォト] モード (  ) でコマンドパネルから [フォト取り出し] → [マイコンピュータ] をクリックする  
オプションパネルに [参照中のフォルダ] が表示されます。
- 2 ▼ をクリックし、表示されたメニューから編集する写真のある  
フォルダをクリックする  
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 編集する画像のサムネイルをクリックし、[開く] ボタンをクリック  
する



作業領域に画像が表示されます。

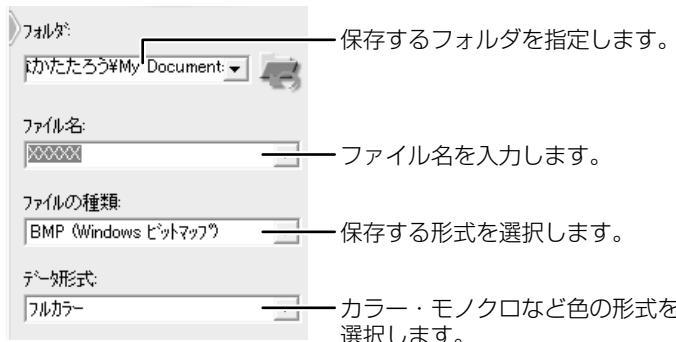
- 4 コマンドパネルから [編集] のメニューをクリックし、画像を加工  
する  
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
効果	うねりや絵画風の加工など、特殊効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

### 3 加工した画像を保存する

#### 1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



#### 2 [保存] ボタンをクリックする

### ヘルプの起動方法

#### 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

### PDF マニュアルの起動方法

#### 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

# 6 動画を編集する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「MotionDV STUDIO」が用意されています。

## 1 MotionDV STUDIO を使う

MotionDV STUDIO を使うと、デジタルビデオカメラの画像を編集できます。

デジタルビデオカメラを i.LINK (IEEE1394) コネクタに接続して、撮影した画像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGM などにつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

### 1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [MotionDV STUDIO] をクリックする  
はじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、「Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書」画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。



## 2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

### 1 接続の確認

- i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

参照 ➤ i.LINKケーブルの接続 「4章 6」

- ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

- デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタルビデオデバイス] 画面が表示されます。

- [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。

### ヘルプの起動方法

- 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

### PDFマニュアルの起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [取扱説明書] をクリックする

## 4 章

# 周辺機器の接続

パソコンをさらに欲張りに使いたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡大しましょう。プリンタやスキャナ、ハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付け方や各種設定、取り扱いについて説明しています。

- 
- 1 周辺機器について 104
  - 2 PC カードを接続する 106
  - 3 USB 対応機器を接続する 109
  - 4 プリンタを接続する 110
  - 5 テレビを接続する 112
  - 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 114
  - 7 CRT ディスプレイを接続する 116
  - 8 その他の機器を接続する 118
  - 9 LAN へ接続する 122
  - 10 メモリを増設する 125

# 1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ ● ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード ● モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ ● フロッピーディスクドライブ（本製品では内蔵）
- マウス ● デジタルカメラ ● 増設メモリ

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

## お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

# 1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

## 1 ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

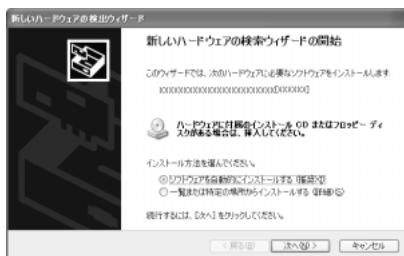
ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

### 【ドライバが用意されている場合】

Windowsには、あらかじめたくさんの中ドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的に対応（プラグアンドプレイ）し、インストールを開始します。

【新しいハードウェアの検出ウィザード】画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



### 【ドライバが用意されていない場合】

【ハードウェアの追加ウィザード】を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

【ハードウェアの追加ウィザード】は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

# 2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- 無線 LAN カード
- Bluetooth PC カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

## 1) PC カードを使う前に

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

### 1 使用できるPCカードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用可能スロット	使用可能タイプ
1 (上側)	TYPE II
2 (下側)	TYPE II / III

#### △ 注意

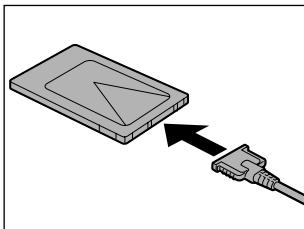
- ・ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- ・PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

## 2) PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコンの PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

### 1 取り付け

#### 1 PC カードにケーブルを付ける

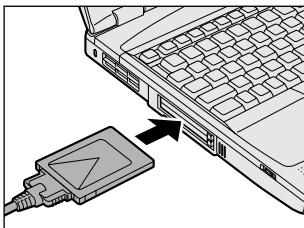


SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

4章

周辺機器の接続

#### 2 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

### 2 取りはずし

#### お願い

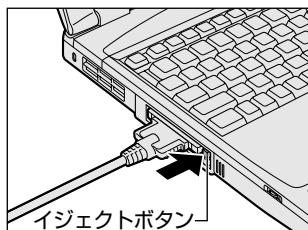
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

#### 1 PC カードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン ( ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする

- ③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、【閉じる】ボタン (X) をクリックする

## 2 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを2回押す



1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度「カチッ」と音がするまで押してください。  
カードが少し出てきます。

## 3 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。  
故障するおそれがあります。

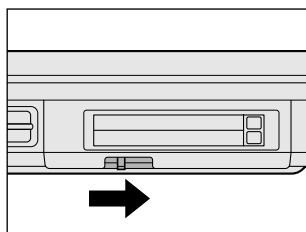
## 4 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

## 3 PCカードをロックする

PCカードロックを使用すると、PCカードが取りはずせないようにできます。PCカードを取り付けた後、必要なときのみ行ってください。

### 1 PCカードロックを有効（右側）にする



別売りのセキュリティロック機器を使って  
も、PCカードロックを固定できます。

	PCカードの取り付け／取りはずし
PCカードロックのみ有効	できない
セキュリティロックのみ有効	できる
PCカードロックとセキュリティロックの両方	できない

PCカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、セキュリティロック→PCカードロックの順に解除してください。

# 3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

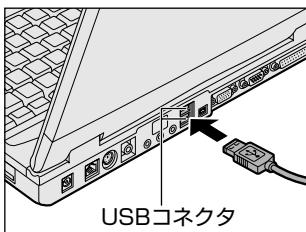
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

## お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができないいためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

## 1 取り付け

### 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

### 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

## 2 取りはずし

### 1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

# 4 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインターフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

参照 ➔ USB 対応機器について「本章 3」

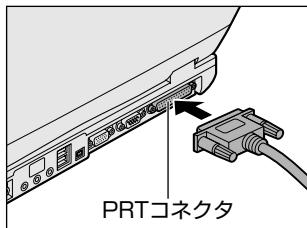
## 1) プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

### 1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

#### 1 プリンタケーブルのプラグをパソコン本体の PRT コネクタに差し込む



#### 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む

プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

### 2 プリンタの設定

#### 【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

[プリンタの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [プリンタを追加する] をクリックする

## 【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする
- 3 [プリンタ] タブの [プリンタポートモード] で、使用するプリンタに合ったモードに設定する
  - ECP (標準値) ..... ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
  - 双方向 ..... 双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインターフェース対応機器を使用する場合に設定します。

## 3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く  
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

# 5 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビとをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

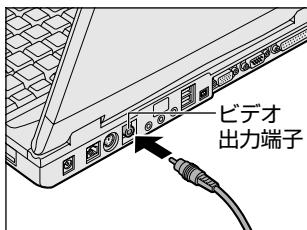
市販のビデオケーブルを使用してください。

## 1 テレビの接続と設定

テレビの取り付け／取りはずしと、表示方法について説明します。

### 1 取り付け

- 1 ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む  
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）、映像端子（黄）をテレビの入力端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

### 2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

#### 【方法 1—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面] をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

## 4 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD .. パソコン本体のディスプレイに表示
- TV ..... テレビに表示

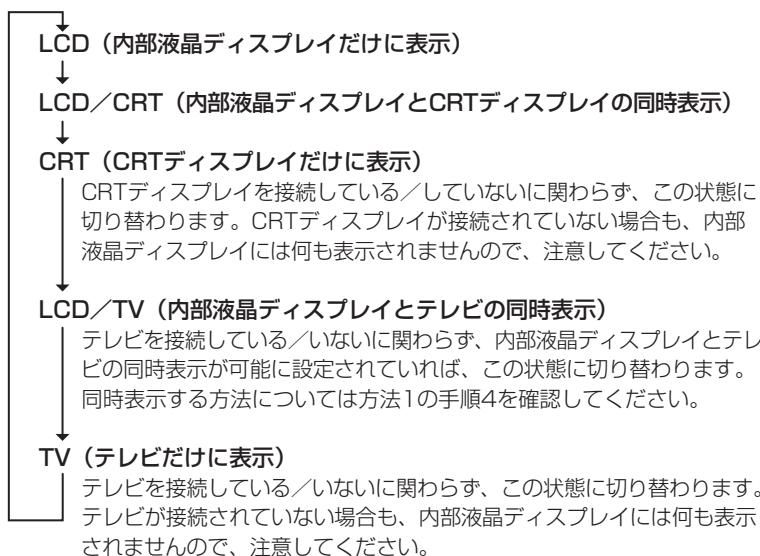
[LCD] と [TV] に同時表示したいときは、[ディファレント リフレッシュレート] をチェック (  ) して、有効にしてください。

MS-DOS プロンプトを表示している場合、パソコン本体の液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

【画面のプロパティ】で表示色数を 32bit に設定していると、この操作はできません。

### 【方法 2— **(Fn) + (F5)** キーを使う】

**(Fn)** キーを押したまま、**(F5)** キーを押すたびに次の順で表示装置が切り替わります。



## 3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

# 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

## お願い 操作にあたって

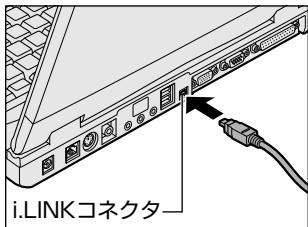
- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

# 1 i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続

i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続について説明します。

## 1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む  
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

## 2 取りはずし

- 1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ①通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
  - ②表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
  - ③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする
- ※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

## 3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート』を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

# 7 CRT ディスプレイを接続する

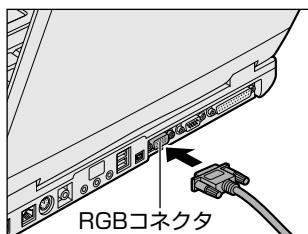
RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示できます。  
パソコンの電源を切ってから接続してください。

## 1) CRT ディスプレイの接続と表示

CRT ディスプレイの接続と表示について説明します。

### 1 接続

#### 1 CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

### 2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

#### 【方法 1 一画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面] をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

## 4 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



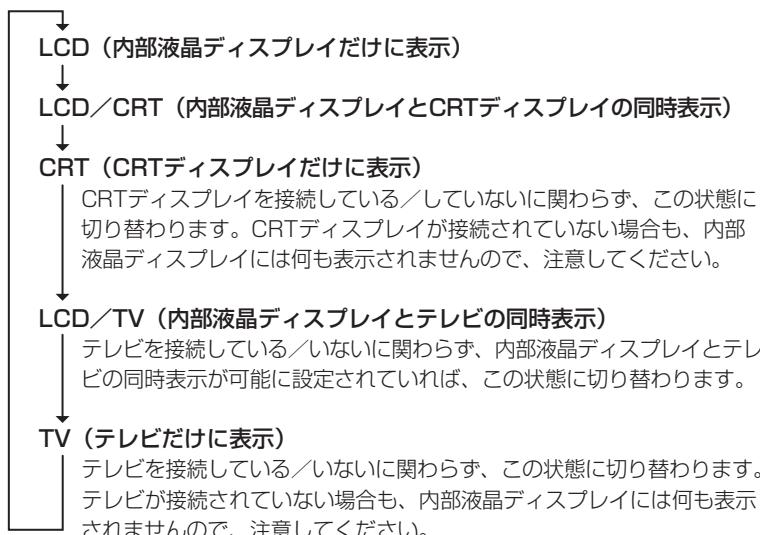
表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD ... パソコン本体のディスプレイに表示
- CRT ... CRT ディスプレイに表示  
[LCD] と [CRT] を有効にすると同時表示されます。

[画面のプロパティ] で表示色数を 32bit に設定していると、この操作はできません。

### 【方法 2— **[Fn]+[F5]**キーを使う】

**[Fn]**キーを押したまま、**[F5]**キーを押すたびに次の順序で表示装置が切り替わります。



## 3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

# 8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

## 1) RS-232C 対応機器

COMMS コネクタには、RS-232C 対応機器を接続できます。

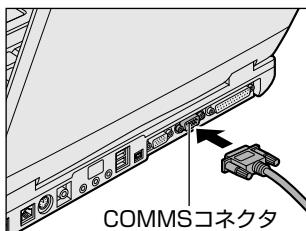
パソコンの電源を切ってから接続してください。

RS-232C 対応機器には次のようなものがあります。

- モデム
- マウス
- テンキー
- スキャナ
- トラックボール

### 1 接続

#### 1 ケーブルのプラグを COMMS コネクタに差し込む



取りはずすときは、COMMS コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

## 2) PS/2 対応機器

PS/2 コネクタには、PS/2 対応機器を接続できます。

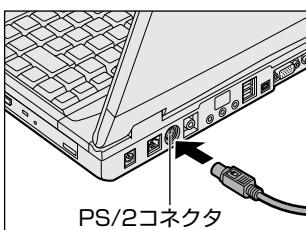
パソコンの電源を切ってから接続してください。

PS/2 対応機器には次のようなものがあります。

- キーボード
- マウス
- テンキー
- トラックボール

### 1 接続

#### 1 ケーブルのプラグを PS/2 コネクタに差し込む



取りはずすときは、PS/2 コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

## 2 タッチパッドとPS/2マウスが同時に使用できない場合

PS/2マウスを取り付けるとタッチパッドが使用できなくなります。タッチパッドとPS/2マウスを同時に使用する場合は、次の手順で設定を変更してください。ただし、マウスによって同時使用できない場合もあります。また、ホイール付きマウスのホイールを使用できない場合もあります。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [東芝HWセットアップ] をクリックする
- ③ [ポインティング装置] タブで [ポインティング装置] を [内部／外部を同時使用] に設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

## 3 マイクロホン

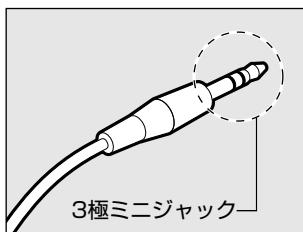
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

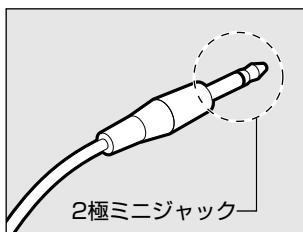
 サウンド機能について「1章 7」

## 1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



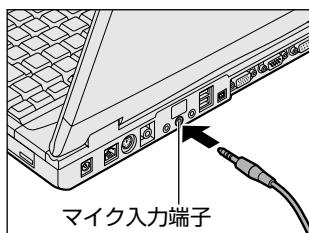
- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

## 2 接続

### 1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

## 4 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

### お願い

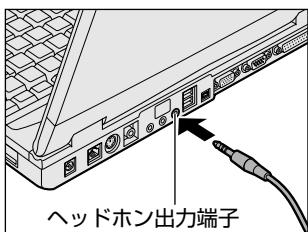
- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスター音量」で調節してください。

マスター音量は、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

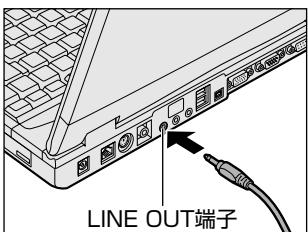
**1 接続****1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む**

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

**5 オーディオ機器**

LINE OUT 端子には、オーディオ機器を接続できます。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm φ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

**1 接続****1 ケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む**

コネクタの形状を確認して差し込んでください。

取りはずすときは、LINE OUT 端子からオーディオケーブルのプラグを引き抜きます。

**2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む**

# 9 LANへ接続する

本製品には、ブロードバンド対応のLANコネクタが内蔵されています。

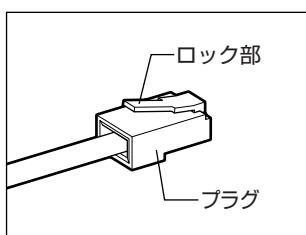
LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品のLANコネクタは、Fast Ethernet(100BASE-TX)、Ethernet(10BASE-T)に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet/Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

## 1 LANケーブルの接続

LANインターフェースの規格と使用できるケーブルは、次のようにになります。

規格	ケーブル
100BASE-TX 規格 (100Mbps)	カテゴリ5 (CAT5)
10BASE-T 規格 (10Mbps)	カテゴリ5または3

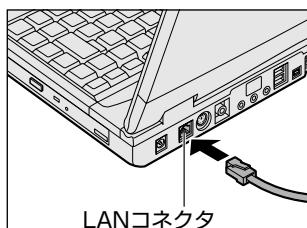
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ1～5まであり、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグを背面のLANコネクタに差し込む

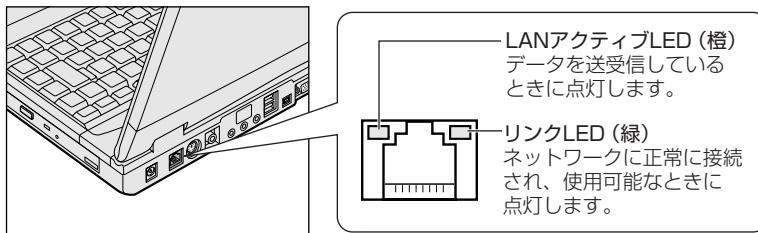


ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

### 3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

#### 2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



### 3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート』を確認してください。

#### △ 注意

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

#### 1 [コントロールパネル]を開き、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする

---

## 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

# 10 メモリを増設する

増設メモリスロットに256MBまでの増設メモリを取り付けることができます。本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでにメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

## ⚠ 警告

本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

## ⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
  - ・スタンバイ中
  - ・LANのウェイクアップ機能を使用しているとき
  - ・メディア切替スイッチでドライブの電源をONにしているとき
  - ・電源を切った直後電源を切った後30分以上たってから行なうことをおすすめします。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

## お願い

- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

## 【取り付けられる増設メモリについて】

増設メモリは、本製品で動作確認されている次の種類のものを使用してください。

Pentium モデル (DynaBook T4/410P **)	タイプY (PC133 規格)
Celeron モデル (DynaBook T4/495C **)	タイプT、W (PC100 規格)

動作確認されている上記仕様以外のメモリを増設すると、パソコンが起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けると、パソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が鳴ります。スロットAに取り付けた場合は「ピー・ピッ」と、スロットBに取り付けた場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

各タイプの規格に準じている増設メモリには、次の製品があります。

タイプY	タイプT	タイプW
128MB (PAME128Y) 256MB (PAME256Y)	64MB (PAME064T) 128MB (PAME128T)	256MB (PAME256W)

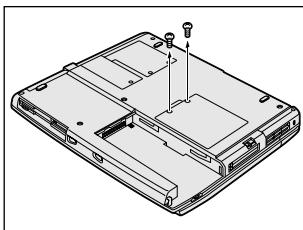
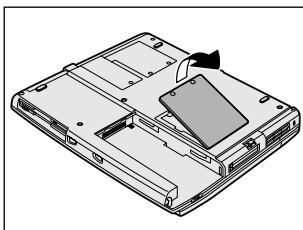
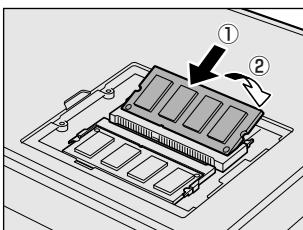
(注) 2002年1月現在のものです。購入時に販売店で確認してください。

## 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

## 1 取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
  - 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
  - 3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
- 参照 ➤ バッテリパックについて「2章 1-③」

**4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす****5 増設メモリカバーをはずす****6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②**

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかりと差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

**7 増設メモリカバーをはめる**

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

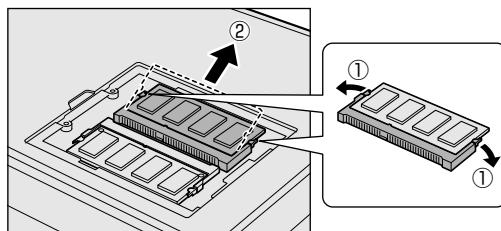
**8 手順4ではずしたネジ2本でとめる****9 バッテリパックを取り付ける**

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本項 3」

## 2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

- 7 増設メモリカバーをはめる  
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる
- 9 バッテリパックを取り付ける

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

## 3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。  
ディスプレイドライバによって、メインメモリ領域のうち 16 ~ 17MB がビデオ RAM として使用されるため、ここで表示されるメモリの容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

### 【確認方法】

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ③ 左画面の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ④ [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ⑤ [メモリ] の数値を確認する

## 5章

# アプリケーションを追加する／削除する

パソコンで何かしようとする場合、アプリケーションが必要です。

本製品にあらかじめ用意されているアプリケーション以外に、さらにこんなことがしたい、新機能が必要になったときに、新たにアプリケーションを追加します。

ここでは本製品に、新たにアプリケーションを追加する方法や、削除する方法について説明しています。

- 
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 130
  - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 131

# 1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

## お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

## 1 インストールする

[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

### 1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CD またはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

## 2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCDから、再インストールして使用することができます。

参照 ➤ 再インストールについて『困ったときは 4章』

### 1 アンインストールする

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

#### メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

### 1 操作手順

- 1 【コントロールパネル】を開き、【 プログラムの追加と削除】をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 【削除】ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。



## 6 章

# システム環境の変更

パスワード、デバイス、プリンタ、ポインティング装置、ディスプレイ、CPU、OS、キーボード、LAN、アラームなど、ハードウェア環境の設定と変更方法について説明しています。

- 
- 1 システム環境の変更とは 134
  - 2 東芝HWセットアップを使う 135
  - 3 セットアッププログラムを使う 143

# 1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器の接続ポート）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、またはセットアッププログラムで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

参照 東芝省電力ユーティリティについて「2章 2」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

セットアッププログラムと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

# 2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、プリンタポートモードなどのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

## 1 東芝 HW セットアップの起動と使用

東芝 HW セットアップの操作について、説明します。

### 1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

### 2 使用方法

#### ■ [全般] タブ ■

セットアッププログラムのバージョンと日付などを表示します。



#### 【標準設定】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

#### 【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

## ■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



### 【パスワードの登録】

- ① [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「\* \* \* \* \* (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [ ] ; : .. / (スペース)
使用できない文字		<ul style="list-style-type: none"><li>・全角文字 (2バイト文字)</li><li>・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など</li><li>・単独のキーで入力できない (入力するときにShiftキーなどを使用する) 文字 【例】   (バーチカルライン) 、 &amp; (アンド) 、 ~ (チルダ) など</li><li>・¥ (エン) [¥] キーや [~] キーを押すと¥が入力されます。</li></ul>

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

### 【パスワードの削除】

- ① [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする  
パスワードが削除されます。

### ③表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

## ■ [デバイスの設定] タブ ■

パソコンが起動したときにセットアッププログラムが初期化する装置を指定します。



### 【デバイスの設定】

#### ● 全デバイス設定

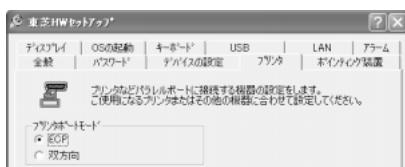
すべての装置を初期化します。

#### ● OSによる設定

システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

## ■ [プリンタ] タブ ■

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。使用するプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。



### 【プリンタポートモード】

#### ● ECP

ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。

#### ● 双方向

双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

**参照** ➔ プリンタの設定「4章 4」

## ■ [ポインティング装置] タブ ■

タッチパッドや PS/2 マウスについて設定します。



### 【ポインティング装置】

#### ● 内部／外部を自動選択

システム起動時に、PS/2 マウスが接続されている場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。システム起動時に、PS/2 マウスが接続されていない場合は、タッチパッドだけが使用できます。

#### ● 内部／外部を同時使用

タッチパッドと PS/2 マウスを同時に使用できます。

PS/2 マウスの仕様によっては、「内部／外部を同時使用」に設定しても、タッチパッドと同時に使用できない場合があります。その場合は、「内部／外部を自動選択」に設定し、PS/2 マウスだけで使用してください。

参照 ➔ PS/2 マウスの接続「4 章 8-②」

## ■ [ディスプレイ] タブ ■

表示する装置を選択します。



### 【起動時の表示装置】

#### ● 内部／外部を自動選択

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。

#### ● 内部／外部を同時使用

外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

参照 ➔ CRT ディスプレイの接続「4 章 7」

## ■ [OS の起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。



### 【OS の起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

### 【起動装置の選択メッセージ】

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

#### ● 表示する

メニュー起動メッセージを表示します。

電源を入れると、次の「メニュー起動メッセージ」が 1、2 秒間表示されます。

Press [F12] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に[F12]キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。

選択するキーは次のようにになっています。

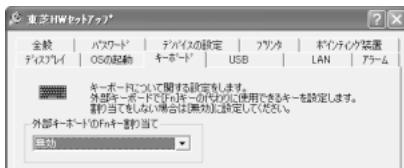
(C)キー	マルチドライブから起動
(N)キー	内蔵 LAN から起動
(F)キー	フロッピーディスクドライブから起動
(①)キー	パソコン本体のハードディスクドライブから起動
(P)キー	PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスク (別売り) から起動
(D)キー	通常の設定された起動ドライブから起動

なお、これらのキー操作をしても [OS の起動] の設定は変更されません。

## ● 表示しない

メニュー起動メッセージを表示しません。

## ■ [キーボード] タブ ■



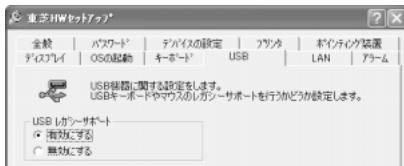
## 【外部キーボードの(Fn)キー割り当て】

PS/2コネクタに接続した外部キーボードで、(Fn)キーの代わりに使用できるキーを設定します。

(Fn)キーの割り当てをしない場合、[無効] に設定します。

## ■ [USB] タブ ■

USB 対応機器について設定します。



## 【USB レガシーサポート】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

### ● 有効にする

レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

### ● 無効にする

レガシーサポートを行いません。

## ■ [LAN] タブ ■

LAN機能について設定します。



## 【 LANのウェイクアップ 】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

## 【 内蔵 LAN 】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

## ■ [アラーム] タブ ■

本体のアラーム音について設定します。



## 【 アラームの設定 】

### ● アラーム音量

アラームの音量をスライダーバーで調整します。

- ・バッテリ消耗時にアラーム音を鳴らす

バッテリ消耗時の警告音を鳴らす場合は、チェックします。

- ・パネルを閉じたときにアラーム音を鳴らす

ディスプレイが閉じたことを知らせる警告音を鳴らす場合は、チェックします。

- ・システムビープ音を鳴らす

バッテリ消耗時、パネルを閉じたとき以外のビープ音を鳴らす場合は、チェックします。

---

## 詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

---

- 1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、画面右上の  をクリックする  
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 3 セットアッププログラムを使う

セットアッププログラムとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。BIOSと呼ばれる場合もあります。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

## セットアッププログラムを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。セットアッププログラムとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- セットアッププログラムで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

## 1 セットアッププログラムの操作

セットアッププログラムの起動と終了、基本操作について説明します。

### 1 起動

#### 1 [Esc]キーを押しながら電源を入れる

「Password =」と表示された場合は、登録したパスワードを入力し、[Enter]キーを押してください。

参照▶ パスワードについて「本章2」、「本節③-2」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

#### 2 [F1]キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

### 2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

#### 1 [End]キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

## 2 [Y]キーを押す

設定内容が有効になり、セットアッププログラムが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

## 途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままでです。

### 1 [Esc]キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

### 2 [Y]キーを押す

セットアッププログラムが終了します。

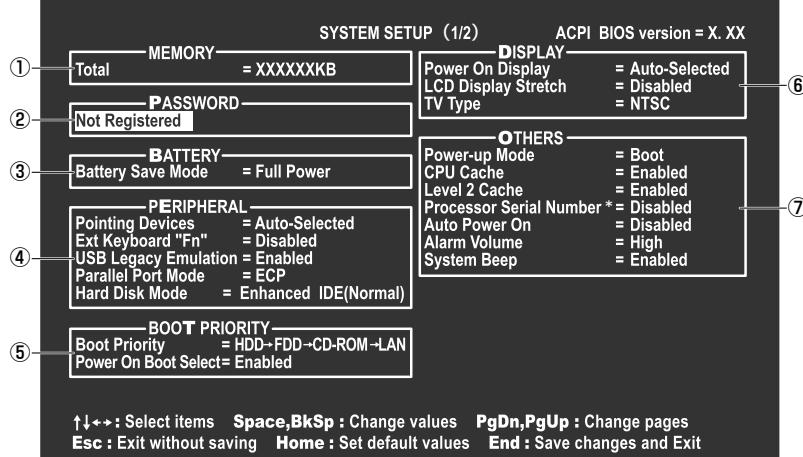
## 3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

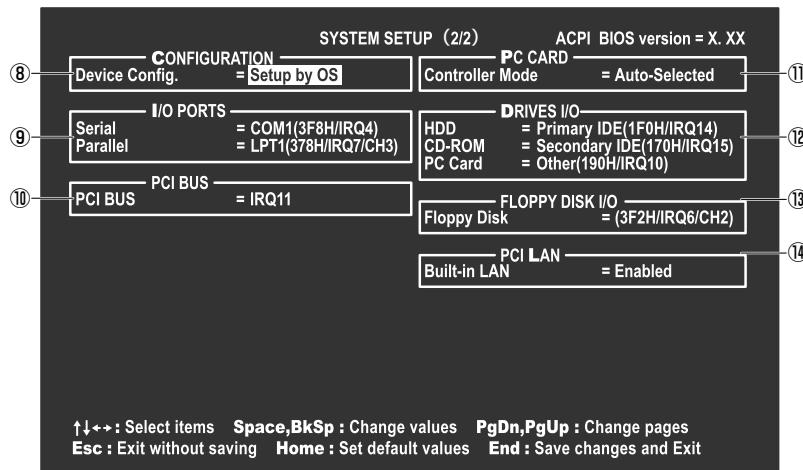
変更したい項目を選択する	[↑]、[↓]、[←]、[→] 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	[Space]または[BackSpace]
画面を切り替える	[PgDn]または[PgUp]
設定内容を標準値にする	[Home] 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

## 2 セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の2つの画面があります。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。

\* インテル® Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

### 3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。  
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

#### 1 MEMORY—メモリ容量を表示する

##### 【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

#### 2 PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

##### 【 Not Registered 】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

##### 【 Registered 】

パスワードが設定されているときに表示されます。

#### ■ パスワードの登録 ■

パスワードの設定は「東芝HWセットアップ」で行うことを推奨します。

 東芝HWセットアップでのパスワード設定「本章 2-1-2」

#### ■ キーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。セットアッププログラムで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD(1.44MB)フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

#### 1 セットアッププログラムを起動する

## 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、**(Space)**または**(BackSpace)**キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

**参照** パスワードの削除方法「本項 パスワードの削除」

## 3 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝HWセットアップ」の場合と同様です。

**参照** 東芝HWセットアップからのパスワード登録「本章 2-①-2」

パスワードは1文字ごとに\*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

## 4 **(Enter)**キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

## 5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

## 6 **(Enter)**キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

## 7 パスワードの設定が終了したら、**(End)**キーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)

The changes you made will cause the system to reboot.  
Insert password service disk if necessary.

## 8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして**(Y)**キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに**(Y)**キーを押します。

セットアッププログラムの画面に戻るには**(N)**キーを押します。

手順9はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

## 9 キーフロッピーディスクを作成する

☞ キーフロッピーディスクの使いかた「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は①キーを、2DDの場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

## ■ パスワードの削除 ■

「東芝HWセットアップ」からの削除については「本章 2 東芝HWセットアップを使う」を確認してください。

1 セットアッププログラムを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、  
SpaceまたはBackSpaceキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに\*が表示されます。

4 Enterキーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

## ■ パスワードを忘ってしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘ってしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**Enter**キーを押す  
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- パスワードを再設定する場合は、**Y**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 キーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再設定後、システムが再起動します。

- パスワードを再設定しない場合は、**N**キーを押す  
次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

## ■ パスワードの変更 ■

パスワードを削除してから、登録を行ってください。

- 参照 ➡ パスワードの削除と登録について  
「本項 パスワードの削除」、「本章2-①-2」

## ■ パスワードの入力 ■

パスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

- 参照 ➡ パスワードを忘れた場合「本項 パスワードを忘ってしまった場合」

インスタントセキュリティ状態にして電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはパスワードを入力してください。インスタントセキュリティ状態にしたときに、パスワードを忘れてしまった場合、キーフロッピーディスクは使用できません。

### 3 BATTERY—バッテリで長く使用するための設定をする

#### 【Battery Save Mode】

バッテリセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●Low Power	●User Setting (設定例)
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright <sup>*1</sup>	LCD Brightness = Semi-Bright <sup>*1</sup>	LCD Brightness = Semi-Bright
Super-Bright <sup>*2</sup>	Bright <sup>*2</sup>	
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

\* 1 バッテリ駆動時 / \* 2 AC アダプタ使用時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、①②キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

#### ● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- High ..... 処理速度を高速に設定する
- Low ..... 処理速度を低速に設定する

#### ● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- Enabled ..... 電力消費を低減する
- Disabled ..... 電力消費を低減しない

### ● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- Disabled ..... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

### ● HDD Auto Off (HDD自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

### ● System Auto Off (システム自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- Disabled ..... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

### ● LCD Brightness (LCD輝度)

画面の明るさを選択します。

- Semi-Bright ..... 低輝度に設定する
- Bright ..... 高輝度に設定する
- Super-Bright ..... 最高輝度に設定する

### ● Cooling Method (CPU熱制御方式)

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

- Maximum Performance ... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。
- Performance ..... CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。
- Battery Optimized ..... CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

## 4 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

### 【 Pointing Devices (ポインティング装置) 】

タッチパッドを使用するか、外部 PS/2 マウスを使用するかを設定します。

- Auto-Selected (標準値) .. タッチパッドまたは PS/2 マウスどちらか 1 つを使用する  
PS/2 マウスを接続している場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。PS/2 マウスを接続していない場合は、タッチパッドが使用できます。
- Simultaneous ..... タッチパッドと PS/2 マウスを同時に使用する

### 【 Ext Keyboard "Fn" 】

外部キーボードの(Fn)キーの割り当てをします。

- Disabled (標準値) .. (Fn)キーの代替えキー割り当てをしない
- Enabled ..... 次のキーを(Fn)キーの代替えキーとして割り当てる
  - Left Ctrl + Left Alt ..... · Right Ctrl + Right Alt
  - Left Alt + Left Shift ..... · Right Alt + Right Shift
  - Left Alt + CapsLock

### 【 USB Legacy Emulation 】

USB キーボード／マウスのエミュレーションを設定します。

- Enabled (標準値) .... レガシーサポートを行う
  - Disabled ..... USB キーボード／マウスのレガシーサポートを行わない
- ドライバなしで USB キーボード／マウスが使用可能になります。

「USB Legacy Emulation」の設定は、USB マウス、USB キーボードだけに適用されます。USB マウスと USB キーボードを使用する場合は、パソコンを起動する前にマウスとキーボードを接続しておく必要があります。

### 【 Parallel Port Mode 】

パラレルポートモードの設定をします。

Windows で使用する場合は、標準値のままで使用できます。

- ECP (標準値) ..... ECP 対応に設定する  
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- Std.Bi-Direct. ..... 双方向に設定する  
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

**メモ**

Windowsを使用している場合は「東芝HWセットアップ」の設定が有効になり、「Parallel Port Mode」の設定は無効になります。

**【 Hard Disk Mode 】**

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) .... 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE ..... Enhanced IDEに対応していないOSを使用する場合に選択する  
この場合、528MBまでが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

**5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する****【 Boot Priority 】**

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
- ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
- ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
- ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
- ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
- ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD

—指定のドライブ順に起動する

電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、一時的に設定内容と違うドライブから起動できます。

これらのキーによって設定は変更されません。

(C)キー	マルチドライブから起動
(N)キー	内蔵LANから起動
(F)キー	フロッピーディスクドライブから起動
(①)キー	パソコン本体のハードディスクドライブから起動
(P)キー	PCカードタイプ (TYPE IIまたはTYPE III) のハードディスク (別売り) から起動
(D)キー	通常の設定された起動ドライブから起動

## 【 Power On Boot Select 】

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

- Enabled (標準値) .... メニュー起動メッセージを表示する
- Disabled ..... メニュー起動メッセージを表示しない

「Enabled」を選択すると、電源を入れたときに次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

"Press [F12] for the boot device selection menu."

このメッセージが表示されている間に[F12]キーを押すと、次のメニューが表示されますので、起動したいドライブのキーを押します。キーを押すと一時的に起動優先順位を最上位に設定し、システムを起動します。下記以外のキーを押しても、システムは起動しません。

### Select Boot Device

- [C] : CD-ROM
- [N] : Network (LAN)
- [F] : Floppy Drive
- [1] : Primary Hard Drive (Built-in)
- [P] : PC Card Hard Drive

Press [C] , [N] , [F] , [1] , [P] , or [D] .

①キー	マルチドライブから起動
②キー	内蔵 LAN から起動
③キー	フロッピーディスクドライブから起動
④キー	パソコン本体のハードディスクドライブから起動
⑤キー	PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスク (別売り) から起動
⑥キー	通常の設定された起動ドライブから起動

## 6 DISPLAY—表示装置の設定する

SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

## 【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部CRTディスプレイを接続しているときは外部CRTディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- Simultaneous ..... 外部CRTディスプレイと本体のディスプレイに同時に表示する

## 【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- Enabled ..... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- Disabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

## 【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- NTSC (JAPAN)(標準値) .. 日本と米国仕様のTV受信機
- PAL ..... ヨーロッパ仕様のTV受信機

## 7 OTHERS—その他の設定をする

### 【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- Boot (標準値) ..... レジューム機能を無効にする
- Resume ..... レジューム機能を有効にする

### 【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- Disabled ..... キャッシュメモリを使用しない
- Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

#### ● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- Write-back (標準値) ... 書き込み方式を「Write-back」に設定する

キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。

- 
- Write-through ..... 書き込み方式を「Write-through」に設定する  
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

## 【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。  
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- Disabled ..... 2次キャッシュを使用しない

## 【 Processor Serial Number 】

※インテル® Pentium® III プロセッサモデルのみ

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Disabled (標準値) ... 無効にする
- Enabled ..... 有効にする

## 【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。  
起動後は設定が解除されます。

Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。  
Windows のタスクスケジューラを使用してください。

- Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- Enabled ..... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動し「Password=」と表示されます。パスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

インスタントセキュリティとは、画面の表示をオフにし、キー入力 (タッチパッド、マウスを含む) もできない状態のことです。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は Space または BackSpace キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは ↑ ↓ キーで行います。

### ● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- Disabled ..... 時間を設定しない

### ● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- Disabled ..... 月日を設定しない

### ● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できます。ただし、スタンバイ状態時のみ実行できます。

- Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
- Enabled ..... リングインジケータ機能を使用する

### ● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

- Enabled ..... Wake up on LAN機能を使用する
- Disabled (標準値) . Wake up on LAN機能を使用しない

## 【 Alarm Volume 】

アラームの音量を設定します。

- High (標準値) ..... 大きな音でアラーム音を鳴らす
- Medium ..... High と Low の中間レベルの音でアラーム音を鳴らす
- Low ..... 小さな音でアラーム音を鳴らす
- Off ..... アラーム音を鳴らさない

「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウが開きます。

次に「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

### ● Low Battery Alarm

バッテリ消耗時の警告音を設定します。

- Enabled (標準値) ... 警告音を鳴らす
- Disabled ..... 警告音を鳴らさない

---

### ● Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じられたことを知らせる警告音を設定します。

- Enabled (標準値) ... 警告音を鳴らす
- Disabled ..... 警告音を鳴らさない

### 【 System Beep 】

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビープ音を鳴らすかどうかを設定します。

- Enabled (標準値) ... システムビープ音を鳴らす
- Disabled ..... システムビープ音を鳴らさない

### 【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- Enabled ..... パネルスイッチ機能を使用する
- Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない

## 8 CONFIGURATION

### 【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する  
それ以外の装置は OS が初期化します。  
この場合、「PC カード」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- All Devices ..... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」を選択してください。

## 9 I/O PORTS(I/Oポート)

### 【 Serial 】

シリアルポートの割り当てを設定します。

- Not Used ..... シリアルポートを割り当てない
  - COM1 (標準値)
  - COM2
  - COM3
  - COM4
- ] 指定のポートを割り当てる

**【 Parallel 】**

パラレルポートの割り当てを設定します。

「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

- DMA

DMA チャネルを設定します。

「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

**10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する****【 PCI BUS 】**

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

**11 PC CARD—PCカードのモードを選択する****【 Controller Mode 】**

PC カードのモードを選択します。

- Auto-Selected (標準値) ... Windows XP、Windows Me、Windows 98、Windows 95、Windows 2000 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- Card Bus/16-bit ..... Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- PCIC Compatible ..... Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected や CardBus/16 - bit で正常に動作しない 16 - bit PC カードを使用する場合に選択します。

**12 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PC カードの設定****【 HDD 】**

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

**【 CD-ROM 】**

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

---

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

### **[ PC Card ]**

システムを起動できる PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときの、アドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

## **13 FLOPPY DISK I/O**

### **[ Floppy Disk ]**

フロッピーディスクドライブのアドレス、割り込みレベル、チャネルの設定を表示します。変更はできません。

## **14 PCI LAN**

### **[ Built-in LAN ]**

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled (標準値) ... 有効にする
- Disabled ..... 無効にする

# 付録

本製品について、外形や各インターフェースなどの  
ハードウェア仕様や、技術基準適合について記して  
います。

- 
- 1 アプリケーション一覧 162
  - 2 本製品の仕様 164
  - 3 各インターフェースの仕様 169
  - 4 技術基準適合について 176

# 1 アプリケーション一覧

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できるWindows XPでは、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照 ➤ 複数のユーザで使用する場合について『基本をマスター 4章』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○ *1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○ *2
東芝コントロール (メール着信機能)			○	
東芝コントロール (ボタン機能)		○	○	
Drag'n Drop CD	○		○ *3	○
LaLaVoice	○ *4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		
Motion DV STUDIO		○		○ *2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス 2002 for TOSHIBA		○	○	○ *2
駅すぱあと	○		○	
筆ぐるめ		○		○ *2
携快電話 6in	○		○	○
Norton AntiVirus 2002	○		○	○
東芝PC診断ツール		○		○ *2
東芝HWセットアップ	○			— *5
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— *5
Fn-esse	○		○	○
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○ *2
AOL6.0	○			○

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
DION 簡単設定ツール		○	○	○ *2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ *2
ODN ダイヤルアップ スタートキット	○		○ *6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
ぶらら	○		○	○
TTnet	○		○	○
InfoSphere		○		
eAccess	○		○	○

\*1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。

\*2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。

\*3 CDへの書き込みは、複数のユーザが同時にすることはできません。

\*4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

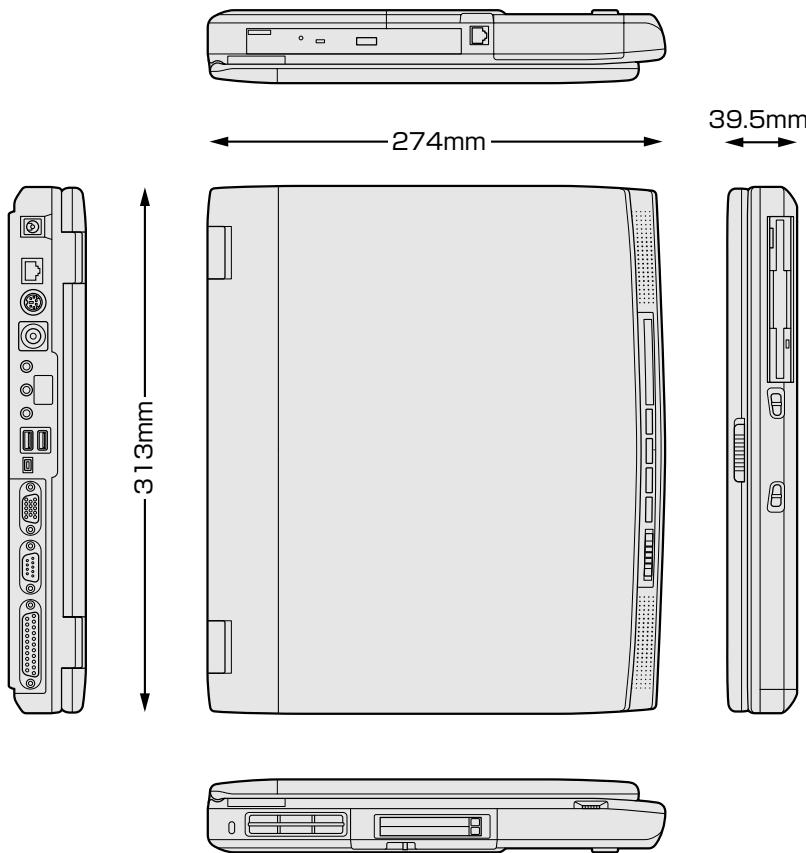
\*5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

\*6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

## 2 本製品の仕様

### 1 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



### 2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

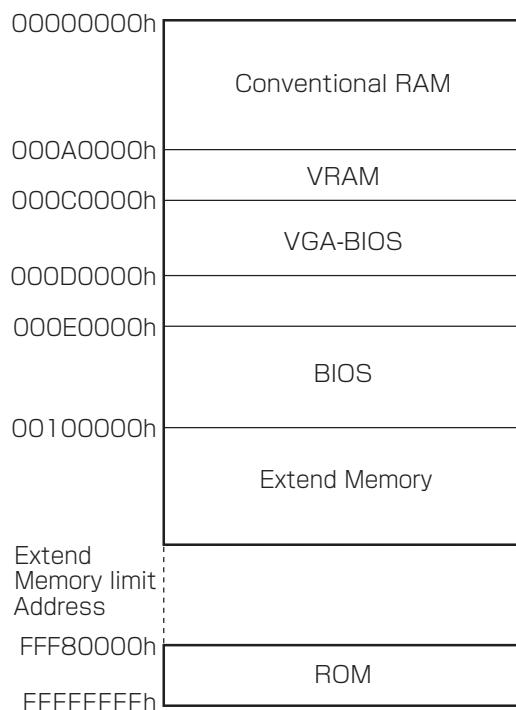
ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	60
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800×600ドット	—	256/256K	
—		1024×768ドット	—	256/256K	
—		1280×1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600×1200ドット*1	—	256/256K	60
—		640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800×600ドット	—	64K/64K	
—		1024×768ドット	—	64K/64K	
—		1280×1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600×1200ドット*1	—	64K/64K	60
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800×600ドット	—	16M/16M	
—		1024×768ドット	—	16M/16M	60/75

\*1 : LCD の場合は、実際の画面 (1024 × 768) 内に、仮想スクリーン表示します。

注) 1 部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

### 3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



## 4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスクレジスタ
	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	(NDP)
110h	赤外線
170h	マルチドライブ
178h	
1F0h	HDC
1F8h	
220h	
230h	
240h	
250h	
278h	プリンタポート #2
2E8h	シリアルポート #4
2F0h	
2F8h	シリアルポート #2、赤外線
300h	
376h	マルチドライブ
377h	プリンタポート #1
380h	
3B0h	VGA
3BCh	プリンタポート #3
3C0h	VGA
3E0h	東芝PCカード インタフェース コントローラ
3E8h	シリアルポート #3
3F0h	FDC
3F6h	HDC
3F7h	FDC
3F8h	シリアルポート #1
400h	
678h	プリンタポート #2
67Bh	
778h	プリンタポート #1
77Bh	
7BCh	プリンタポート #3
7BFh	
EB40h	
EB7Fh	LANポート

## 5 DMA使用リソース

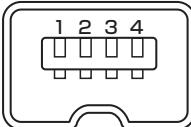
DMA	PIT
0	なし
1	
2	
3	
4	Cascade for CTLR1
5	
6	
7	

## 6 IRQ使用リソース

IRQ	PIT
0	タイマ (PIT)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	#1
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
	#2

### 3 各インターフェースの仕様

#### 1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

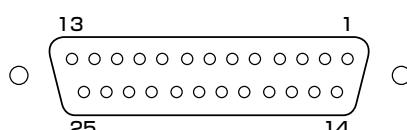
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## 2 PRTインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-STROBE	PDO～7のデータを書き込むための同期出力信号	O
2	PDO	PDOのデータを送信する信号	I/O
3	PD1	PD1のデータを送信する信号	I/O
4	PD2	PD2のデータを送信する信号	I/O
5	PD3	PD3のデータを送信する信号	I/O
6	PD4	PD4のデータを送信する信号	I/O
7	PD5	PD5のデータを送信する信号	I/O
8	PD6	PD6のデータを送信する信号	I/O
9	PD7	PD7のデータを送信する信号	I/O
10	-ACK	-STROBEに対するデータ受信完了信号	I
11	BUSY	データ受信できるかどうかを示すステータス信号	I
12	PE	用紙切れを知らせるステータス信号	I
13	SELCT	セレクト／ディセレクト状態を示すステータス信号	I
14	-AUTFD	自動用紙送り機構用信号	O
15	-ERROR	アラーム状態を示すステータス信号	I
16	-PINT	初期状態に戻す信号	O
17	-SLIN	未使用	O
18	GND	信号グランド	
19	GND	信号グランド	
20	GND	信号グランド	
21	GND	信号グランド	
22	GND	信号グランド	
23	GND	信号グランド	
24	GND	信号グランド	
25	GND	信号グランド	

コネクタ図



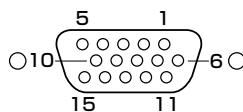
D-SUB 25ピンメス

信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向（I）：パソコン本体への入力  
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

### 3 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	IDO	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	

コネクタ図



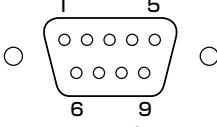
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向（I）：パソコン本体への入力  
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

## 4 COMMSインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CD	受信キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データ末端レディ	O
5	GND	信号グランド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	送信要求	O
8	CTS	送信可	I
9	CI	被呼表示	I

コネクタ図



D-SUB 9ピンオス

信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## 5 PS/2インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	MOUSDT	マウスデータ	I/O
2	EXTKBDT	キーボードデータ	
3	GND	グランド	
4	VCC	5V	
5	MOUSCK	マウスクロック	I/O
6	EXTKBCK	キーボードクロック	I/O
コネクタ図			
 ミニDIN 6ピンメス			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

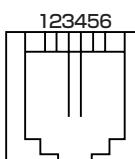
付録

## 6 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## 7 モデムインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	—	ノーコンタクト	
2	—	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	—	ノーコンタクト	
6	—	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号名：—がついているのは、負論理値の信号です

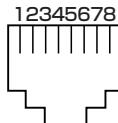
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## 8 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	O
2	-TX	送信データ (-)	O
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図

付  
録

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

# 4 技術基準適合について

## 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

## 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

## FCC information

Product name : DynaBook T4 series

Model number : PS183

### FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING :** Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, PS/2 mouse/keyboard port, parallel port, USB port, video-out port, IEEE1394 port, microphone jack and serial port. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

付  
録

## FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

## Contact

**Address :** TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

**Telephone :** (949) 583-3000

---

**TOSHIBA**

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS183\* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.  
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

## モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号  
A00-0940JP

## ●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年1月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

## ●自動再発進の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

\* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

---

## **Conformity Statement**

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

## **Network Compatibility Statement**

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

## Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.  
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

### Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

付録

### Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

### If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

---

## **Disconnection**

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

## **Fax branding**

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

## Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

---

## **Notes for Users in Australia and New Zealand**

### **Modem warning notice for Australia**

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1

ATS133=1

AT&F

AT&W

AT%TE=0

ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

### **Notes for use of this device in New Zealand**

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC  
Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATS0=0 (not auto answer)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)

ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
  - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
  - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.  
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

---

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

### **General conditions**

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

# 松下 CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA720 (マルチドライブ)

## 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

### ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

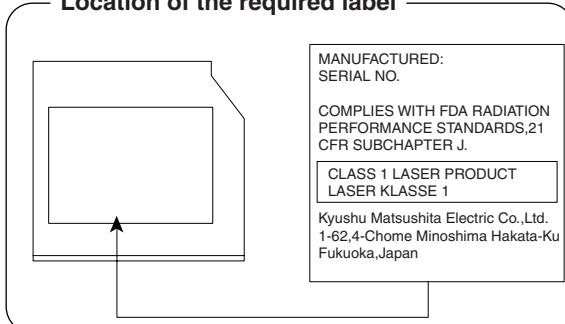
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。  
本装置はヨーロッパ共通の  
レーザ規格 EN60825 で  
“クラス 1 レーザー機器” に  
分類されています。  
レーザー光を直接被爆する  
ことを防ぐために、この装  
置の筐体を開けないでくだ  
さい。

2. 分解および改造をしないで  
ください。感電の原因にな  
ります。信頼性、安全性、  
性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を  
使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害お  
よび事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。  
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損  
害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談  
ください。

<b>CAUTION</b>	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
<b>ATTENTION</b>	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
<b>VORSICHT</b>	EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
<b>ADVARSEL</b>	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
<b>ADVARSEL</b>	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
<b>VARNING</b>	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPOSERING FOR STRÅLEN.
<b>VARO !</b>	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÄVLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

付  
録

### Location of the required label



# 東芝 CD-RW／DVD-ROM ドライブ SD-R2102 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。  
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。  
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格  
EN60825で“クラス1レーザー機器に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。”  
CLASS 1 LASER PRODUCT  
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1  
LASER KLASSE 1 PRODUKT  
TO EN 60825-1  
クラス1レーザー製品
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。  
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

### DANGER

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION  
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

### ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER  
EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION  
DANGEREUSE AU FAISCEAU.

### VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE  
LASERSTRÄHLUNG WENN ABDECKUNG  
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

### 注意

ここを開くと可視レーザ光及び不可視レーザ光が  
出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

### ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED  
ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING  
ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR  
DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPOSERING FOR  
STRÅLEN.

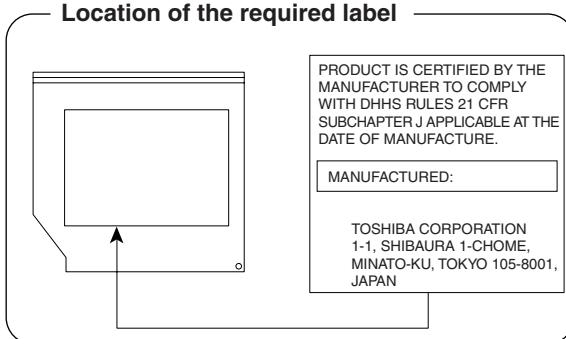
### VARO !

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET  
ALTTIINA LASERSATEILYLLE. ÄLÄ KATSO  
SÄTEESEN.

### WARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR  
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRALE ÄR FARLIG.

Location of the required label



# さくいん

## 記号

■キーを使ったショートカットキー ... 24

## A

Alt キー ..... 20, 21  
Arrow Mode LED ..... 22

## B

BackSpace キー ..... 21  
BATTERY ..... 150  
Battery LED ..... 65  
BIOS ..... 143  
BOOT PRIORITY ..... 153

## C

Caps Lock LED ..... 22  
Caps Lock 英数キー ..... 20  
CD ..... 47  
CD の取り扱い ..... 48  
COMMS インタフェース ..... 172  
COMMS コネクタ ..... 16  
CONFIGURATION ..... 158  
CRT ディスプレイ ..... 116  
CRT ディスプレイの接続 ..... 116  
Ctrl キー ..... 20, 21

## D

Del キー ..... 21  
Disk LED ..... 37  
DISPLAY ..... 154  
DMA 使用リソース ..... 168  
Drag'n Drop CD ..... 90  
DRIVES I/O ..... 159  
DVD ..... 47  
DVD-Video を観る ..... 92  
DVD の取り扱い ..... 48

## E

End キー ..... 21  
Enter キー ..... 21  
Esc キー ..... 20

## F

FDD/CD-ROM LED ..... 41, 48, 84  
FLOPPY DISK I/O ..... 160  
Fn キー ..... 20  
Fn キーを使った特殊機能キー ..... 23

## H

Home キー ..... 21

## I

i.LINK インタフェース ..... 169  
i.LINK コネクタ ..... 16  
i.LINK 対応機器 ..... 114  
i.LINK 対応機器の取り付け ..... 115  
i.LINK 対応機器の取りはずし ..... 115  
i.LINK によるネットワーク接続 ..... 115  
I/O PORTS ..... 158  
I/O ポート ..... 158  
I/O ポートマップ ..... 167  
IEEE1394 インタフェース ..... 169  
IEEE1394 コネクタ ..... 16  
IEEE1394 対応機器 ..... 114  
IEEE1394 対応機器の取り付け ..... 115  
IEEE1394 対応機器の取りはずし ..... 115  
Ins キー ..... 21  
InterVideo WinDVD ..... 93  
IRQ 使用リソース ..... 168

## L

LAN アクティブLED ..... 123  
LAN インタフェース ..... 175

LAN ケーブルの接続	122
LAN コネクタ	16
LAN コネクタに関するインジケータ	123
LAN のウェイクアップ機能	141
LAN へ接続する	122
LINE OUT 端子	16
<b>M</b>	
MEMORY	146
MotionDV STUDIO	101
<b>N</b>	
Numeric Mode LED	22
<b>O</b>	
OTHERS	155
<b>P</b>	
PASSWORD	146
Pause キー	21
PC CARD	159
PCI BUS	159
PCI LAN	160
PC カード	106
PC カードスロット	14
PC カードの取り付け	107
PC カードの取りはずし	107
PC カードをロックする	108
PERIPHERAL	152
PgDn キー	21
PgUp キー	21
PRT インタフェース	170
PRT コネクタ	16
PS/2 インタフェース	173
PS/2 コネクタ	16

PS/2 対応機器	118
PS/2 対応機器の接続	118

## R

RGB インタフェース	171
RGB コネクタ	16
RS-232C 対応機器	118
RS-232C 対応機器の接続	118

## S

Shift キー	20, 21
Space キー	20

## T

Tab キー	20
--------	----

## U

USB インタフェース	173
USB コネクタ	16
USB 対応機器	109
USB 対応機器の取り付け	109
USB 対応機器の取りはずし	109

## W

Windows Media Player	82, 85
Windows のネットワーク設定	123
WinDVD プレーヤー	95
Win キー	20

## ア

アプリケーション一覧	162
アプリケーションキー	21
アプリケーションボタン	15
アプリケーションを削除する	131
アプリケーションを追加する	130
アロー状態	22
アンインストール	131

さく  
いん

## イ

イジェクトボタン .....	42
インスタントセキュリティ機能 .....	23
インストール .....	130
インターネットボタン .....	15

## ウ

ウィンドウの色を変える .....	35
-------------------	----

## エ

液晶ディスプレイの取り扱い .....	36
---------------------	----

## オ

オーディオ機器 .....	121
オーディオ機器の接続 .....	121
オーディオプレイボタン .....	15, 84, 97
オーバレイキー .....	21
大文字ロック状態 .....	22
オリジナル音楽CDを作る .....	89
音楽CDを聴く .....	82
音楽ファイルを聴く .....	85

## カ

海外でインターネットに接続する ..	59
外形寸法図 .....	164
回線切換器 .....	59
解像度を変更する .....	34
書き込み可能状態 .....	43
書き込み禁止状態 .....	43
拡張コントローラ .....	96
カタカナ／ひらがなキー .....	21
カテゴリー .....	122
壁紙を変える .....	33
画面の手入れ .....	36

## キ

キーシフトインジケータ .....	15, 22
キーフロッピーディスクの作成 ..	146
キーボード .....	14
キーボード図 .....	20
キーボードの取り扱い .....	25
逆送りボタン .....	15
休止状態 .....	73, 74, 77
休止状態の実行方法 .....	77

## ク

クリック .....	26
------------	----

## ケ

警告音 .....	66
-----------	----

## サ

再生／一時停止ボタン .....	15
サイドライト用FL管 .....	36
サウンド機能 .....	38
先送りボタン .....	15
サポートしているビデオモード ...	164

## シ

システムインジケータ .....	15, 19
システム環境の変更 .....	134
システムスピーカ .....	40
周辺機器について .....	104
周辺機器のドライバをインストールする .....	105
使用できるCD .....	47
使用できるDVD .....	48
使用できるマイクロホン .....	119
省電力アイコン .....	65, 72
省電力モード .....	71
省電力モードの削除 .....	72

省電力モードの作成 .....	72
省電力モードの詳細設定 .....	73
省電力モードの状態を表示する .....	72
新着メールチェック機能 .....	52
<b>ス</b>	
数字ロック状態 .....	22
スクリーンセーバを使う .....	33
スタンバイ .....	74, 76
スタンバイの実行方法 .....	76
スピーカ .....	14
<b>セ</b>	
セキュリティロック .....	62
セキュリティロック・スロット .....	14
セットアッププログラム .....	143
セットアッププログラムの画面 ...	145
<b>ソ</b>	
増設メモリスロット .....	17
増設メモリの取り付け .....	126
増設メモリの取りはずし .....	128
<b>タ</b>	
タッチパッド .....	14, 26
タッチパッドとPS/2マウスが 同時に使用できない場合 .....	119
タッピング機能 .....	26
ダブルクリック .....	26
<b>ツ</b>	
通風孔 .....	14
<b>テ</b>	
停止ボタン .....	15
ディザリング .....	31
ディスプレイ .....	14, 31
ディスプレイ開閉ラッチ .....	14
デジカメ Walker .....	98
デジタルカメラの写真を編集する ..	98
デスクトップのテーマを変える ..	32
テレビに表示する .....	112
電源コードの取り扱い .....	18
電源コネクタ .....	16
電源スイッチ .....	14
<b>ト</b>	
動画を編集する .....	101
東芝HWセットアップ .....	135
東芝省電力のプロパティ .....	71
東芝省電力ユーティリティ .....	71
特殊機能キー .....	25
時計用バッテリ .....	66
ドラッグアンドドロップ .....	26
取り付けられる増設メモリについて .....	126
<b>ナ</b>	
内蔵モデム .....	59
<b>ハ</b>	
ハードディスクドライブ .....	37
パスワードの削除 .....	136, 148
パスワードの登録 .....	136, 146
パスワードの入力 .....	149
パスワードの変更 .....	149
パスワードを忘れてしまった場合 ..	149
パソコン本体の取り扱い .....	18
バッテリカバー .....	69
バッテリ充電完了の状態で 使用できる時間 .....	67
バッテリ充電完了までの時間 ...	66, 67
バッテリ充電量が減少したとき .....	66

バッテリの充電保持時間	68
バッテリパック	17, 64
バッテリパックを交換する	69
バッテリ充電量を確認する	65
バッテリラッチ	69
バッテリを節約する	69
バッテリを長持ちさせるには	68
パネルスイッチ機能	79
半／全キー	20

## ヒ

ビープ音	66
左ボタン	14
ビデオケーブルの取り付け	112
ビデオケーブルの取りはずし	113
ビデオ出力端子	16
ビデオ表示ウィンドウ	94
ビデオモード	164
表示装置を切り替える	116
表示不良画素	31

## フ

ファンクションキー	20
フォーマット	43
複数ユーザで使用する場合	75
プラグアンドプレイ	105
プリンタ	110
プリンタの設定	110
プリンタの取り付け	110
プリンタの取りはずし	111
プリンタポートモードの設定	111
フロッピーディスク	41
フロッピーディスクドライブ	14, 41, 42
フロッピーディスクドライブの取り扱い	46

フロッピーディスクの種類	41
フロッピーディスクのセット	42
フロッピーディスクの取り扱い	46
フロッピーディスクの取り出し	42
フロッピーディスクの内容を確認する	42
分岐アダプタ	59

## ヘ

ヘッドホン	120
ヘッドホン出力端子	16
ヘッドホンの接続	121
変換キー	21

## ホ

ポインタ	28
ボリュームダイヤル	14, 38

## マ

マイク入力端子	16
マイクロホン	119
マイクロホンの接続	120
マスター音量	38
マルチドライブ	16

## ミ

右ボタン	14
------	----

## ム

無変換キー	20
-------	----

## ×

メール着信ランプ	52, 57
メール着信ランプを消す	57
メールボタン	15
メディア切替スイッチ	15, 83, 84, 85, 93

メモリマップ .....	166
メモリ容量の確認 .....	128
メモリを増設する .....	125

## モ

モジュラージャック .....	16
モデムインターフェース .....	174

## ヤ

矢印キー .....	21
------------	----

## ラ

ライトプロテクトタブ .....	43
------------------	----

## リ

リンクLED .....	123
--------------	-----

## ワ

ワンタッチボタン .....	50
----------------	----

